（３年成人看護）
学習評価の充実を通して成人期の対象理解を目指した指導

単元名　「成人の特徴と健康の保持増進」 （身近な人へのインタビュー）	〔指導項目〕 （１）成人の健康と看護 ア　成人各期の特徴， ウ　成人看護の特徴

１　単元の目標

(1)成人各期の身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴について理解するとともに，個別の特徴に応じて適切に対応していくために必要な基礎的な技術を身に付ける。

(2)生活習慣が健康に与える影響や個別の特徴について思考を深め，成人の健康の保持増進について多様な課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだす。

(3)成人の生活・健康の特徴に応じた看護について自ら学び，成人の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・成人各期の生活・健康の特徴および基本的な知識について理解している。 ・成人の個別の特徴に適切に対応するための基礎的な技術を身に付けている。	生活習慣が健康に与える影響や個別の特徴について，演習・グループワークを通して思考を深め，成人の健康の保持増進について多様な課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。	成人各期の生活・健康の特徴に関心を持ち，対象とのコミュニケーションや演習に主体的に取り組み，健康の保持増進を目指した看護のあり方について自ら学び，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要

（１）単元について

本単元は，身近な成人を対象にインタビューを行うことで，これまでに学習した，各年代の発達課題や生活・健康の特徴について，具体例をもとに理解を深めていくことと，情報を得るための観察・質問といった対人的コミュニケーション能力の必要性を理解し，身に付けることをねらいとしている。

（２）生徒について

５年一貫課程の３年生であり，活発でよく協力しグループ活動に臨むことができる。これまで「基礎看護」の座学において，対象を理解するために，身体的側面・精神的側面・社会的側面の三つの側面から着眼点を持ち情報を収集することや，情報を，客観的情報・主観的情報に整理しまとめたりすることなどを学習している。

また，２年基礎看護臨地実習では，実際に患者様を受け持ち，患者を理解する（患者像を捉え，表現する）目的でのコミュニケーションを取ることができた。

（３）学習活動について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で校外での活動が制限されたため，インタビュー対象者は，成人期であり協力を得やすい校内の先生方に依頼した。本校は大規模校で，面識が少ない先生も多いため，緊張感を持ちながら臨むことも期待できた。

インタビューの実施，情報の整理・理解，対象者の特徴・健康課題の把握など，グループ活動により協働的に学び，多様な視点や考えを出し合い，思考を深めていけるような展開とした。対象者へのインタビューを２回行い，情報を得るためのインタビューの工夫改善などもグループで行えるようにした。協働的な学びを通して得たことはワークシートにまとめ，適宜，個人でも振り返りながら授業を進めていけるよう工夫している。

（４）単元の指導計画（全５時間）

１．成人期の生活の特徴　　（３時間）
２．成人期の健康課題と健康の保持増進　（２時間）

４　テーマ「学習評価の充実を通して成人期の対象理解を目指した指導」について

対象を理解することは，適切な援助を行う基盤となるものである。本単元においても，対象理解のために，インタビュー活動や得た情報の整理・解釈など様々な学習活動を取り入れている。

また，指導法改善のために学習評価の充実にも取り組んだ。具体的には，『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』[1)] を参考に，単元の目標や評価規準を作成して指導と評価の計画を立案し，授業を行い，評価方法・内容や，十分満足ではない場合の指導の手立てなど，研究を試みた。

指導と評価の計画では，学習活動にあらかじめ評価の場面を設定し，単元の評価規準をもとに，概ね満足できる状態（生徒の姿）を，「学習活動に即して具体化した評価の観点の趣旨」として示している。また，あわせて評価場面における評価の方法も示した。

1）国立教育政策研究所「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）」専門教科「看護」https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

５　学習活動の展開と評価の計画（全５時間）

※ワークシート類は，９　**参考資料**　を参照

◎**記録に残す場面**とは，生徒全員の評価資料を収集し評価する場面を指す。

時間	ねらい・学習活動等	単元の評価規準を学習活動に即して具体化した評価の観点の趣旨・方法		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次(1)	**【ねらい】対象への一次インタビューを行い，必要な情報を得るとともに，対象者の身体的・精神的・社会的特徴をまとめる。**			
	1．事前課題を持ち寄り，「対象の健康」を考えるために行う，情報取集（インタビュー）の視点及び観察の視点についてグループで協議し，確認する。 2．インタビュー計画を立てる。 	各側面の特徴を踏まえ，インタビューに向けて，健康に関連した質問項目や観察の視点を挙げている。 〔事前学習シート〕	インタビューに向けて，質問項目・質問の順番，観察のポイントなどを工夫し計画を立てている。 〔グループでの発言〕	インタビューによる情報収集，情報整理，解釈により対象の理解を深める学習に見通しを持ち，取り組もうとしている。 〔事前学習シート〕
第一次(2)	3．対象の生活および健康についてグループでインタビューをする。 ・役割は下記の通り。 **聞き手：インタビューをする。** **記録者：インタビュー内容および観察したことを記録する。** **観察者：インタビュー中の対象および聞き手の言動について観察・記録する。** 	計画に従って，インタビューを行い，情報を記録している。 〔観察・チェックリスト〕	インタビューの記録や自分の気づきから得た情報について，客観的・主観的情報に適切に区別し記録している。 〔ワークシート①〕	

	4．インタビューの様子を振り返る。 ・それぞれの役割から気づいた点 ・目的の情報を引き出せたかについて			**記録に残す場面** 次回のインタビューに向け工夫・改善しようとしている。 〔チェックシート〕 **※評価場面１**
第一次(3)	5．得た情報を整理し，まとめる。 ・教科書や資料等で補足し，対象者の特徴について，三側面から考える。 6．さらに対象を理解するために必要と考えられる情報を考え，インタビューシートを再度作成する。 	得た情報を各側面に合わせ分類・整理している。 〔観察・ワークシート①〕	**記録に残す場面** 発達段階・健康状態などから考えられる一般的特徴と，個別の特徴（個人の背景）の両方を挙げている。 〔ワークシート①〕	
第二次(1)	**【ねらい】二次インタビューを行い，個別の特徴を加味した健康課題を見いだすとともに，成人期の対象を看護する上で必要な視点を考える。**			
	1．追加情報を得るために，再度インタビューを行う。 ・グループのメンバーの役割内容は一度目のインタビューと同様だが，違う役割を経験する。 ・今回の役割は下記の通り。 **聞き手：ワークシート①対象の理解①追加項目を参考に質問する。** **記録者：ワークシート②対象の理解②に情報（S/O 混在）を記入する。** **観察者：ワークシート②対象の理解②に情報（O 中心に）およびチェックリスト（コミュニケーション）を記入する。** 2．発達段階や成人期の生活の特徴など，教科書等で調べた内容と比較しながら，対象の生活のポイント（よいところ・気になるところ・健康課題）を考えまとめる。 	必要な情報を追加収集し，整理・解釈できている。〔チェックシート，ワークシート①②〕	**記録に残す場面** 個別性に配慮し健康課題・健康増進のポイントを見いだしている。〔ワークシート③〕 **※評価場面２**	インタビュー活動を振り返り，工夫点など，今後の実践に役立てようとしている。 〔チェックシート〕

第二次⑵	3．インタビューレポートを作成し，報告会で発表する。 ・〇〇先生のプロフィール紹介 ・〇〇先生を３つの側面から分析 ・〇〇先生が健康な生活で過ごすためのポイントを提案 4．人々に看護を実践していくにあたって大切なことを考えまとめる。	得た情報から健康課題を導き出し解決策を挙げている。〔グループワーク・発表での発言〕	健康の保持増進のための援助策は，発達段階や健康状態，生活状況など，多様な要因を考慮し挙げられている。〔ワークシート③〕	記録に残す場面 対象と積極的に関わり，理解を深め，看護実践に役立てていこうとしている。〔ワークシート③〕 ※評価場面３

６　経過

（１）学習の様子

生徒は，既習の「対象の理解」をもとに事前学習に取り組み単元の学習に臨んでいたため，対象者（先生）から情報を引き出そうと積極的に会話を進めることができていた。対象者は，比較的健康に気を付け生活している方が多かったため，健康課題を導き出すのには苦労した様子であったが，インタビューを２回行うことで，聞きたい事項やポイントを絞っていくこともできた。

副産物として，校内の先生方に看護科の生徒の様子を知ってもらう機会にもなった。

（２）評価にあたって

今回は，グループワーク中の生徒の様子やインタビュー場面での相互評価など，様々な評価の場面・方法を検討した。インタビューは，グループメンバーで役割分担しながら協働的に進めていった。また，グループで協議をしながら，収集した情報の整理や，健康上の課題を見いだすこと，発表資料をまとめることなどの活動を行うが，ワークシートに個人の考えを表現する箇所や，学習活動として思考し表現する場面を設けるなど工夫した。

７　評価の実際

今回は，具体的な評価方法について，三つの場面を取り上げ，資料 [2] などを参考に，ワークシートやチェックシートを資料として評価を行う場合について，記載例とともに示した。

評価においては，単元の評価規準を【学習活動に即して具体化した評価の観点の趣旨】に照らし，まず，「おおむね満足できる」状況（B）か，「努力を要する」状況（C）かを判断した。

さらに，「おおむね満足できる」状況（B）と判断されるもののうち，生徒の学習状況について質的な高まりや深まりをもつと見られるとき，「十分満足できる」状況（A）とした。加えて，（C）と判断された生徒への指導の手立てを示し，指導の改善へとつなげられるようにした。

2）1）と同じ

（１）**評価場面１** 第一次⑶

ここでは，「主体的に学習に取り組む態度」について評価する。インタビューをより良いものとするために，コミュニケーション技術を活用しながら進めようとしているか，次のインタビューに向け工夫改善していこうとしているかなどを評価していく。

【単元の評価規準を学習活動に即して具体化】※「おおむね満足できる」状況（Ｂ） 次回のインタビューに向け工夫・改善しようとしている。	
「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した具体例 次回得たい情報，インタビューの目的などを明確にしながら，次回のインタビューに向けた改善点を具体的に挙げ，さらにより良いものとしようとしている。	**「努力を要する状況」（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て** チェックリストを振り返り，良かった点や改善したい点を挙げ，次回の工夫点を考えさせる。また，ワークシート①を見直し，もっと補足が必要な情報や，次回のインタビューで詳しく知りたい内容・観察点を考えさせる。

【記載例をもとにした評価】

チェックリスト（コミュニケーション技術）

	項目	観察者 ○・△・×	対象者 ○・△・×
1	挨拶や言葉遣い、身だしなみに注意し、不快な印象を与えていないか。	○	○
2	インタビューの前に自己紹介をしたか。	△	○
3	相手のペースを守り、話しやすい雰囲気か。	○	○
4	会話を広げ、楽しめていたか。	○	○
5	失礼なくコミュニケーションが図れているか。	△	○
6	しっかり傾聴することができたか。	△	○
7	笑顔で接するよう心掛けられていたか。	○	○
8	円滑で自然なコミュニケーションが図れているか。	○	○

【気づいたこと】

・知らない人だと話しにくいので、まずは学生から自己紹介を丁寧に伝え、会話しやすい関係性を築くとよいと思った。
・慣れてくると態度が崩れてしまうことがあるので、緊張感を保つ。
・相手の話を最後まで聞くことが大切。

【次回インタビューに向けて】

・笑顔を心掛け、緊張感を保ってインタビューする。
・対象の健康について気になるキーワード（視点）を定めて生活背景について質問していく。

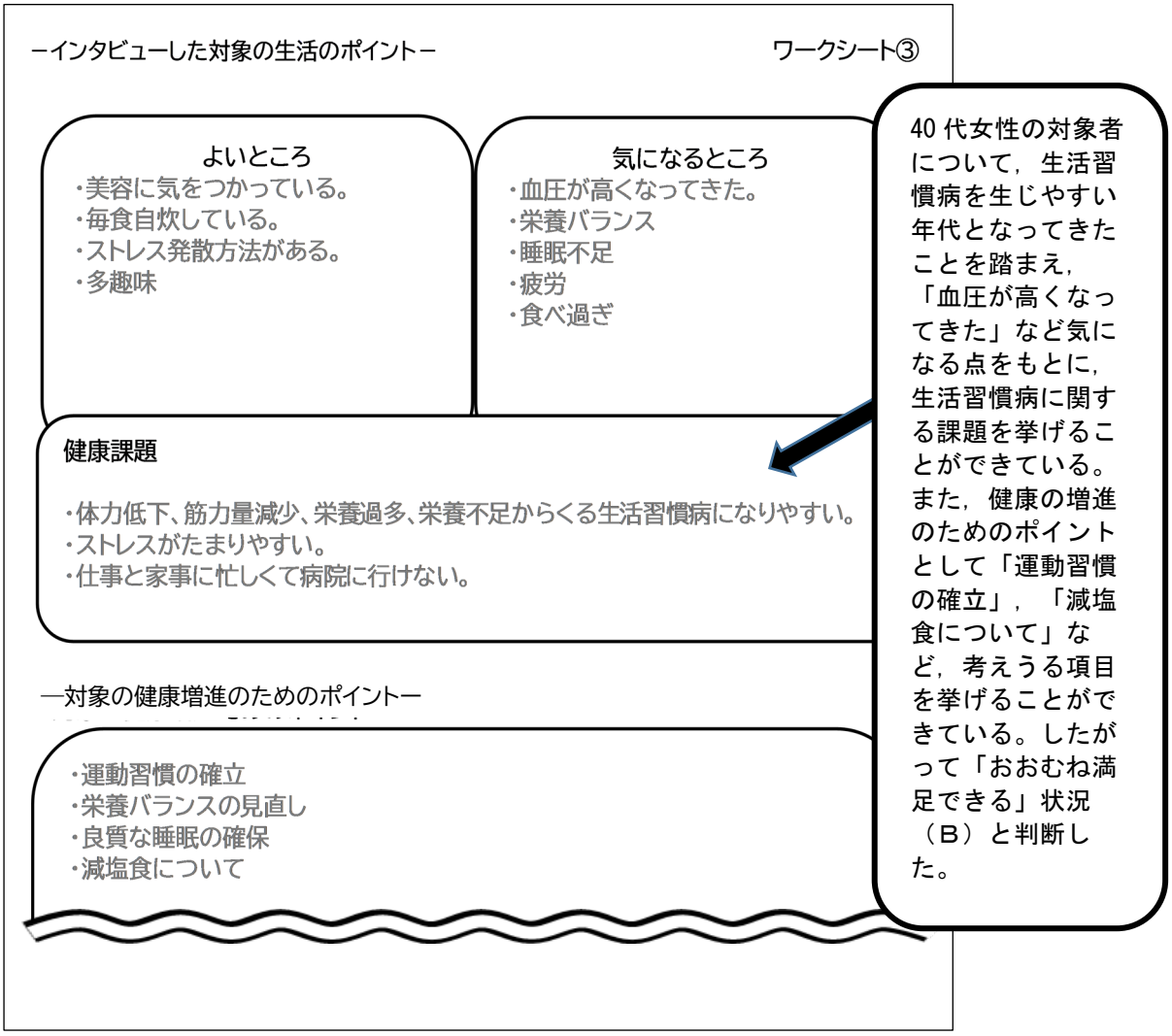
インタビューの振り返りをもとに，「自己紹介を丁寧に伝え，会話しやすい関係性を築くとよいと思った」など，チェックリストの内容を踏まえ，工夫点を見いだしている。また，今回のインタビューも目的である情報を得ることについて，「健康について気になるキーワード（視点）を決めて生活習慣について質問していく」と，次回に向け具体的な方法を挙げて取り組もうとしていることが窺える。このことから「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

（２）**評価場面２** 第二次⑴

ここでは，「思考・判断・表現」について評価する。個別の特徴を加味した健康課題を見いだすというねらいに即して，対象の日常生活が健康に与える影響について，一般的な知識と比較し，健康課題を抽出していく学習活動としている。さらに，生活と健康との関連に気づき，他者と共有し，自己の考えを表現する学習を取り入れた。これらを通して深まった思考を，ワークシート③を用いて評価している。

【単元の評価規準を学習活動に即して具体化】※「おおむね満足できる」状況（Ｂ） 個別性に配慮し健康課題・健康増進のポイントを見いだしている。	
「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した具体例 健康課題を見出した理由について，生活状況や一般的特徴など，根拠となる情報も明らかにしながら（例：血圧が高くなるのが心配であれば，バランスの良い食事や減塩食の効果を勉強し，毎朝血圧を測りましょう，など）ポイントを考え，対象の生活を尊重した言葉で表現している。	**「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て** 自分自身の健康観や保健行動を想起させ，生活習慣や家事，仕事，育児，介護等が成人期の健康に与える影響について整理させる。

【記載例をもとにした評価】



（３）**評価場面３** 第二次⑵

ここでは，「主体的に学習する態度」について評価する。一回目の改善点・工夫点のもと，臨んだ二回目のインタビューにより得た情報から，成人期の人々の生活と健康の関連，健康増進のために必要な看護の視点について思考を深め，さらに，健康の保持増進を目指した看護のあり方について自ら学び，主体的かつ協働的に取り組もうとしているかを，ワークシート③を用いて評価している。

【単元の評価規準を学習活動に即して具体化】※「おおむね満足できる」状況（Ｂ） 対象と積極的に関わり理解を深め，看護実践に役立てていこうとしている。	
「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した具体例 成人各期の特徴についての理解のもと，健康状態や生活状況を捉えた上で対象を理解することの必要性と，今後自らの実践にどのように活用していくか，自分の言葉で表現している。	**「努力を要する状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て** インタビューの目的や，インタビューが対象の健康課題を見出すことにどのように役立っているか，情報シートと健康課題を見比べるなどし，考えさせる。

【記載例をもとにした評価】

－インタビューした対象の生活のポイント－　　ワークシート③

－人々の看護にあたって大切なこと－

適切に健康づくりに取り組むことや健康障害を予防すること、健康障害に伴う治療を受け、回復していくまで、あるいは病気を持ちながら、その人らしく生活するために、患者一人一人の立場や役割、生活習慣と関連付けて支援することが必要である。

【看護師のあり方】
健康な生活を営むことができるようにするためには、対象の生活習慣を十分に把握することが必要である。実習で患者の生活背景や価値観を知ることが、無理なく理想的な生活を取り入れることにつながる。実習で患者を受け持った時も、普段の生活から患者を知り、入院による影響や退院後の生活について、より患者が実践できるように考える必要がある。生活習慣や対象の価値観にあった看護は患者の健康生活を支えることにつながると思った。

対象の健康課題を見いだしていく学習を通して，「患者一人一人の立場や役割，生活習慣と関連付けて支援すること」の必要性に気づき，対象の理解が患者の健康の保持増進のための支援策を見いだす時に必要であることに気づき，看護師としてのあり方について発展的に考えられているため「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

８　おわりに

２年基礎看護臨地実習では，対象の情報をヘンダーソンの分類で考察・統合して整理する。この授業では基礎看護の学びを生かせるようワークシートを作成し，実習準備期間と同時期に組み込むことで基礎・成人領域の学習効果向上を図った。一方，成人看護臨地実習では回復力が高く入院期間が短いこと，入院患者の高齢化が進む中で成人期の患者は受け持ち対象になりにくい。

この実践を通して，成人期の対象の生活イメージを抱き，理解を深め，対象の未来を見据えた情報収集，思考の幅を広げ，より具体的な患者対応について考えることができた。疾患を通して患者を捉えるのではなく，まずは生活者としての患者を捉えなければならないことに自ら気づかせる過程は，成人看護のみならず，全ての患者に寄り添う看護を，より具体的に考え，実践していくための導入に至ったと考える。

また，評価の充実を図る取組として，新観点に基づく評価規準の作成，学習活動の検討，評価の具体例を作成した。さらに評価を指導の改善へとつなげられるよう，実践・研究を重ねたい。

9　参考資料

（1）　事前学習シート

事前学習（インタビューのために）

基礎看護で学習した「対象の理解」を思い出し、まとめよう！

	キーワード	着眼点	インタビューに向けて	
			質問項目	観察の視点
身体的側面	VS 食事 排泄 睡眠休息 衣生活 清潔 活動	・生活習慣 ・日常生活動作を妨げる因子 ・排泄回数、性状 ・活動と休息のバランス、種類 ・現在の体調、定期的な受診および服薬の有無 ・視覚、聴覚、発語、認識	・平均的な食事内容はどのようなものですか。 ・1日のスケジュールを教えてください。 ・生活をする上で困難なことがありますか。 ・これまでどのような病気・けがをしましたか。 ・現在、病院にかかっていますか。 ・健康のために特に気をつけていることは何ですか。	・表情 （穏やか・神経質・苛立ちなど） ・顔色、皮膚の状態、発汗 ・呼吸の乱れ、息切れの有無 ・太り過ぎ、やせ過ぎ ・発語、聞こえ
精神的側面	レクリエーション 宗教	・人生観 ・信仰の有無 ・趣味 ・余暇活動 ・支え（家族・社会）	・自分の性格をどのように捉えていますか。 ・不安や悩みはありますか。 ・支えになる人はいますか。 ・趣味はなんですか。 ・特定の宗教はありますか。	
社会的側面	仕事 環境 コミュニケーション 学習	・仕事内容、役割 ・現在の困り感 ・今後の不安	・学校や家庭であなたの役割は何ですか。 ・主な仕事内容は何ですか。 ・仕事についてどのような思いがありますか。	

この学習を通して、どんなことが身に付きそう？？

（2）　ワークシート①

成人期の特徴　　ワークシート①

年代：（　　）歳代　性別：（　　）性　発達段階：（　　）期

※①インタビューで得た情報を記載

※②教科書・副教材で調べたものを記載

	対象の理解①	発達課題	一般的な特徴・課題
身体的側面			
精神的側面			
社会的側面			

※③ ②や事前学習を参考に、補足したい情報項目をさらに追記していく。

（３）　ワークシート②

ワークシート②

※第二次(1)での、2回目インタビューで得た情報を記載する。

	対象の理解②
身体的側面	・〇〇の素などを多用し、主食と副菜（大皿1品）、汁物、漬物などの食事パターン ・昼の弁当は冷凍食品に頼っている。 ・車通勤である。休みの日の買い物もすべて車移動。 ・ヨガは1週間～1か月に1回程度。90分／回 ・体力が落ちて階段の上り下りがつらい。 ・疲れが取れない。 ・残業して遅く帰宅するときは就寝が1～2時になることもある。毎日弁当を3つ作らなければならないので、4時半から5時には起床して家事をしている。 ・眠気覚ましにコーヒーをよく飲む。（7～10杯程度／日）
精神的側面	・仕事で大変なことがあるとしばらく引きずってしまう。 ・子どもの受験を控えていて、もっと支えてあげたいと思う。 ・ママ友以外にも、特に仕事の悩みは同僚に相談できる。 ・生徒の成長が本当に嬉しい。
社会的側面	・家事は夫とも分担している。夫は協力的だと思う。 ・子育て休暇などをもあり、職場の福利厚生面では満足している。

（４）チェックシート

※第一次(2)、第二次(1)のインタビュー実施後に記入

チェックシート（コミュニケーション技術）　　実施日：

	項　目	観察者	対象者
		○・△・×	○・△・×
1	挨拶や言葉遣い、身だしなみに注意し、不快な印象を与えていないか。		
2	インタビューの前に自己紹介をしたか。		
3	相手のペースを守り、話しやすい雰囲気か。		
4	会話を広げ、楽しめていたか。		
5	失礼なくコミュニケーションが図れているか。		
6	しっかり傾聴することができたか。		
7	笑顔で接するよう心掛けられていたか。		
8	円滑で自然なコミュニケーションが図れているか。		

【気づいたこと】

【次回に向けて】

評価は、
○良い、△少し気になる点がある、
×全くできていない
〔方法〕
※観察者：聞き手の感想など、他のメンバーの意見も踏まえ総合的に判断
※対象者：インタビューした先生が判断

・ワークシート③

※第二次(1),(2)で話し合った内容を踏まえ記載する。

ワークシート③

ーインタビューした対象の生活のポイントー

よいところ	気になるところ

健康課題

ー対象の健康増進のためのポイントー

ー人々の看護にあたって大切なことー

（２年基礎看護）
「医療安全」「情報管理」について，座学・演習と関連を持たせた指導

単元名　「医療安全の基本と情報管理」	指導内容（２）看護の共通技術 ウ　安全管理

１　単元の目標

⑴ リスクマネジメントを含む医療安全の基本的な考え方を理解し，安全管理の基礎的な技術を身に付ける。
⑵ 安全管理に関する基本的な課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだす。
⑶ 医療安全や情報管理について自ら学び，患者の安全を守るために，主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・リスクマネジメントを含む医療安全の基本的な考え方を理解している。 ・患者の安全を守るための基礎的な技術を身に付けている。	安全管理や情報管理について，演習・グループワークを通して思考を深め，看護倫理を踏まえて事故防止についての解決策を見いだしている。	医療安全や情報管理について問題意識を持ち，患者安全のための事故防止対策について，自ら学び，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要

（１）単元について

本単元は，リスクマネジメントを含む医療安全の基本知識を基に，生徒が身近に感じられる看護臨地実習と関連付けた演習を通して，事故を予測しその防止について考えられることをねらいとした。特に，個人情報及びプライバシーの保護などに関しては，看護倫理を踏まえて情報管理の重要性を意識づける必要がある。そのため，看護情報など他科目とも関連性を持たせながら，情報収集の場面などを通して，具体的な情報管理についても生徒が自ら考えられるように展開した。

（２）生徒について

平成 14 年に衛生看護科から看護科（進学課程）と名称変更し，看護・医療系の大学・短大・専門学校への進学を目指す学科となった。看護臨地実習は，１年生は１単位，見学実習を行っている。２年生は２単位，見学実習と一部体験実習として，慢性期病院で４日間実習を行っている。受持ちは持たず，シャドーイングでの実習が中心となり，生徒にとっては短い期間だが貴重な学びの機会となっている。

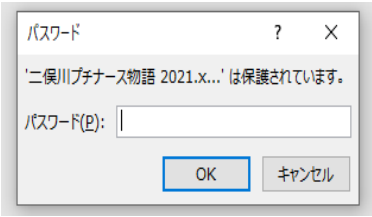
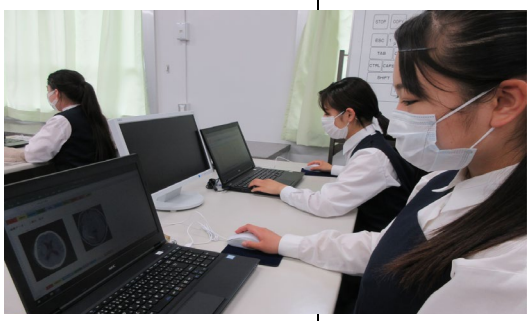
（３）指導計画（全４時間）

１．医療安全の基本　　（１時間）
２．起こりやすい事故事例（１時間）
３．看護における情報管理（２時間）　本時

４　テーマ「医療安全・情報管理について，座学・演習と関連を持たせた指導」について

限られた授業や実習の中で，いかに効果的に学習できるかというところを考えた。本時は，「看護情報」において情報収集を行う演習を，ログインパスワードを入力したり，メモした情報の取扱い方を考えたりする活動などとともに取り上げ，病院で電子カルテを操作する場面と関連性を持たせ，看護の場面としてイメージしながら主体的に学習に取り組めるようにした。さらに，「基礎看護」における医療安全（情報管理）と関連性を持たせ，効果的な学びができるようにした。

５　学習活動の展開（２時間）

展開	ねらい・学習活動等	指導上の留意点	備考，評価の観点・方法など
1時間目	**【ねらい】模擬電子カルテによる情報収集の演習を通して，看護の場における情報管理の重要性や責任について考える。**		
	1. 模擬電子カルテによる情報の収集についての演習を行う。 **「これから受け持つ患者さんについて，電子カルテで情報集をします。あなたが大切だと思う情報を患者シートにメモしてください。」**	・病院実習で患者情報のメモを取る場面として設定し，自分が大切だと思う情報をメモする。 ・「基礎看護」の記録についての既習内容や「看護情報」の情報の管理についての既習内容を想起させ，演習に取り組む。	教材：本校作成の模擬電子カルテ ワークシート
	(1) 模擬電子カルテより，模擬患者の情報収集を行い，ワークシート（患者情報シート）にメモをとる。 **模擬カルテパスワード画面↓**  	・模擬電子カルテには，パスワード設定をし，ファイルを開く際にパスワードを入力することで，情報管理の重要性を意識づける。 	
	「（情報管理の視点で）あなたはどのように行動しますか。また，なぜそのように行動すべきだと考えますか。」	・情報の取り扱い（確実にログアウトをする，メモ紙には記載法に気を付け記入する，メモ紙は記録した後にシュレッダーにかけるなど）についても気づかせる。	評価の観点： 〔思考・判断・表現〕 情報の適切な取り扱い方のための課題を発見し，情報管理について解決策を見いだしている。
	(2) グループワークを行い，患者の情報収集をして気がついたことについて共有する。 収集した情報の内容や（情報管理の観点で）どのように行動すべきか，またその理由について協議し，ワークシートに記入する。 (3) グループワークでの協議内容を発表し，クラスで共有する。	・看護において多くの個人情報を取り扱うことを再認識し，看護者に求められる，誠意ある行動や倫理観を踏まえた行動であることの気づきを共有する。 ・看護倫理の忠誠の原則や，倫理綱領の守秘義務，また保健師助産師看護師法などについて，教科書で確認する。	〔知識・技術〕 患者情報に関する情報の記録方法について理解し記録している。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 情報を適切に収集し記録できるように，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 **基礎看護教科書：** **p. 51　(6) 忠誠の法則** **p. 54　倫理綱領** **「５　守秘義務」**

2時間目	【ねらい】ＫＹＴを通して，看護臨地実習における情報管理の重要性と事故の防止について考える。		
	２．実習に関する場面についてのＫＹＴ（危険予知トレーニング）により，情報管理についての演習を行う。 事例１：エレベーター 事例２：ＳＮＳ (1)事例のイラストシートを用いてグループワークを行う。 ①潜在する危険箇所を発見する。 ②発見した危険について，なぜ危険であるのかを考える。 ③危険を解決するために，自分はどのようにしたらよいかを考える。 ④チーム・グループとしてできることを考える。 ⑤他の場面でも，類似した危険がないか考える。	・前時の情報管理の重要性についての学びを生かしながら，臨地実習での場面をイメージして，具体的に考えるようにする。 ・これまで，実習オリエンテーション等で注意喚起した内容も想起させ，演習にいかす。 ・危険を予測してその予防に努めるという，医療安全の基本についても理解を深める。 ・グループワークでは，②の**なぜ危険なのか**という根拠をしっかりと述べられるようにする。	教材：ワークシート 評価の観点： 〔思考・判断・表現〕 事例について危険を予測し，その理由を多面的に考察し，具体的な対策を考えている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 情報管理について自ら学び，適切に情報を取扱い，行動できるよう，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	(2)グループワークでの協議内容を，クラスで発表し，クラスで共有する。	・情報管理を適切に行うことは患者の安全を守ることにつながり，正しく判断して自ら行動がとれることが重要であることを共有する。	
	(3)授業を通して感想を書く。	・「これからの病院実習では，情報漏洩についてどのように行動していきたいですか」と投げかけ，授業の感想を書いてもらう。	

６　経過

本単元においては，医療安全の基本とともに，生活の中でインターネットの利用が定着している世代である生徒に対して，看護倫理を踏まえた情報の管理をしっかりと意識づける必要があると考え展開した。また，限られた時間数の中で，他科目とも関連性を持たせながら，臨地実習などの身近なテーマを取り扱い，生徒が関心を持って主体的に取り組める工夫を行うことが効果的であると考えた。

演習では，模擬電子カルテのファイルにパスワード設定をして，各自がファイルを開く際にパスワードを入力しないと開かないようにすることで，患者様の個人情報が守られていることや目的を持ち許可された者のみが電子カルテを見られ，責任が伴うことを意識づけさせた。生徒は，関心を持って情報収集に取り組み，「カルテには患者さんの個人情報がたくさん載っていることに驚いた。」「情報をどのように生かしていくかが大切だと思った。」などの意見があった。また，個人情報の取り扱いについて，パスワードを管理すること，実習記録は個人が特定される書き方をしないなど記載方法に気をつけること，メモなどを落とさないようにすること，正しく情報を収集すること，情報システムについての正しい知識を持つこと，情報を生かすための知識を持つことなどが挙げられた。さらに，終了時には確実にログアウトすることや，メモ用紙などは記録後にシュレッダーにかけるなどの情報の取り扱いについても気づかせる必要がある。

グループワーク後の意見交換で考えを深め，看護倫理の忠誠の法則や倫理綱領における守秘義務，保健師助産師看護師法などの基本知識とも結びつけることにより，情報管理の重要性や看護師の責任などについて意識づけができる。

ＫＹＴ（危険予知トレーニング）については，情報管理ということに焦点をあてて，実習に関する身近な場面を取り上げて，前時との関連性を持たせた。これまでの臨地実習オリエンテーションにおいても注意喚起を促してきた内容ではあるが，なぜ危険なのか，どうしたらよいのか，また他の場面で類似する場面・危険はないかと，グループで話し合い深めることで，医療安全の視点を持って自らが判断し行動することにつながると考える。

本校は，臨地実習では受持ち患者は持たないため，直接カルテから情報を収集することはないが，模擬カルテを使用した情報収集の演習や実習場面でのＫＹＴを行うことで，情報管理の重要性や看護師の責任に気づき，臨地実習の際に看護師の行動を意識的に見て考え，自分自身も判断して行動することにつながると考える。

７　おわりに

医療や看護の進歩により，看護の場における事故も多様化している。それらに対応できるように，医療安全の基本を踏まえて，生徒が自ら判断し事故防止のために適切な行動が取れるようにしていく必要がある。今回，座学による医療安全の知識を基に演習を実施し，生徒が看護の場をイメージして具体的な予防対策を考えることで，臨地実習などで自ら考え行動できることを目指した。今後も，他科目と関連付けながら，生徒の倫理観を育み，効果的に医療安全の学習ができるように，柔軟に授業改善を行っていきたい。

＜資料１＞　模擬電子カルテの画面の一部（患者基本情報，経過記録）

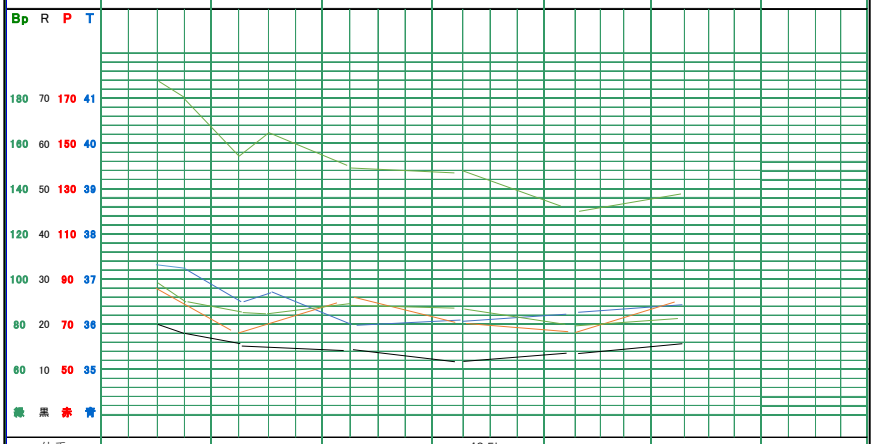
ホーム	病棟情報	患者基本情報	入院時情報	指示簿	検査データ	画像データ	看

患者基本情報（データベース）：　二俣川　花子

氏名	二俣川　花子
年齢	85歳
生年月日	昭和10年9月1日
性別	女
職業	無職（専業主婦だった）
社会資源	介護保険の利用なし。年金受給あり。
住宅環境	4LDKマンション、5 階建ての 4 階、エレベーターあり。洋式トイレ手すりはなし。
家族構成	長女（64歳）、長女の夫（65歳）、孫（女34歳）、（夫は1年前に死亡）
性格	穏やか、夫が死んでから口数が少なくなった（長女より）
視覚障害	老眼（老眼鏡使用）
聴覚障害	老人性難聴（右の耳元で大きな声で話すと会話可能）
言語障害	なし

ホーム	病棟情報	患者基本情報	入院時情報	指示簿	検査データ	画像データ	看護記録	経過記録	看護問題

経過記録（検温表）：　二俣川　花子



月日			1/1			1/2			1/3			1/4			1/5			1/6			1/7		
体重												48.5kg											
食事	種類		絶飲食			絶飲食			流動食			流動食			流動食			3 分粥			全粥		
食事	量	主							3	3	3	5	5	5	8	10	8	8	10	10			
食事	量	副							3	3	3	8	8	8	8	10	10	8	10	10			
飲水量																							
尿	回数/量		1200ml			1800ml			5			6			7			6					
便	回数／性状		0			0			1			0			0			2					
			尿道カテーテル			尿道カテーテル																	
体温				37.3	37.2	36.5	36.7		36.4			36.1			36.3			36.5					
脈拍				88	86	68	70		76			70			68			76					
呼吸				20	18	16	14		14			12			14			16					
血圧				188/98	180/90	154/86	166/84		150/90			148/80			130/70			138/74					
清潔ケア						陰部洗浄			清拭			陰部洗浄			清拭			陰部洗浄 洗髪			清拭		

＜資料２＞　模擬電子カルテ演習の患者情報シート

医療安全

患者情報シート

★模擬電子カルテで、患者さんの情報収集をしよう。

情報メモ

★情報収集をして気がついたことは？

★情報を取り扱う際の行動について考えてみよう。
また、その理由は？

＜資料３＞　ＫＹＴワークシート　事例１

医療安全
KYT（危険予知トレーニング）

どんな危険があるだろう？

＜事例1＞

①考えられる危険は何か

②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか

＜資料４＞　ＫＹＴワークシート　事例２

医療安全
KYT（危険予知トレーニング）

どんな危険があるだろう？

＜事例2＞

①考えられる危険は何か

②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか

（２年看護臨地実習）
レジリエンスを高めるための指導～ネガティブイベントへの対処のために～

単元名　「看護臨地実習（基礎看護）」	〔指導項目〕 （１）基礎看護臨地実習

１　単元の目標

⑴ 臨地における看護実践の基礎について理解するとともに，関連する技術を身に付ける。
⑵ 臨地における看護実践の基礎に関する課題を発見し，倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす。
⑶ 臨地における看護実践の基礎について自ら学び，よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
臨地における看護実践の基礎について理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	臨地における看護実践の基礎に関する課題を発見し，倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。	臨地における看護実践の基礎について自ら学び，よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要とねらい

（１）単元について

本単元は，医療者として必要な高い倫理観や看護観を育み，これまでに学習した知識や技術を実践的・体験的に学びを統合することをねらいとしている。

（２）生徒について

５年一貫課程の本校では、「看護臨地実習」は、高校２年生３単位、３年生７単位を実施している。生徒は初めての病院実習となる。

（３）指導計画

１．実習オリエンテーション
　・個人情報の扱いについて　（２時間）
　・医療事故の実際と対策　（２時間）
　・チーム医療の一員として取り組むこと　（２時間）
　・レジリエンスを高めよう　（２時間）本時
２．基礎看護臨地実習（病院での実習）　（１０５時間）
３．実習の振り返り　（４時間）

４　テーマ「レジリエンスを高めるための指導」について

看護臨地実習における成功体験は，看護師になりたい生徒の意欲を高めるとともに学びの継続につながる。その成功体験を導く構成要素の一つとして，レジリエンスを高めることがある。

実習終了後に「実習での困難な場面とその対処行動」について調査を行ったところ，問題解決や相談などポジティブな対処行動をとっていることが多いことが分かった。しかし，他の看護教育課程に比べ【忍耐】で対処しようとする割合が高いことが分かったため，【忍耐】で対処しようとしたネガティブイベントを抽出し，事前に演習等で体験することにより，ポジティブな対処行動を目指すこととした。

※ここではレジリエンスについて，「ネガティブイベントに遭遇し，一時的に窮地や混乱に陥っても，その経験を肯定的に乗り越え適応し，再統合を図り，さらなる成長を果たす力，自己回復力」とした。

５　学習活動の展開（２時間）

展開	ねらい・学習活動等	指導上の留意点	備考，評価の観点・方法など
	【ねらい】 臨地実習で出会うネガティブイベントについて知り，その際の対処行動について考えることから，場面に応じた適切な対処法が分かり，身に付けることができる。		
導入	1. 本時の学習目的を確認する 【学習の目的】 看護実習生が体験した、困ってしまった場面を取り上げました。 それぞれの場面に対して、どのように対応すると解決ができるかを考え、レジリエンスの向上を図ります。やりがいのある楽しい実習につながる力が身に付くように、しっかり考え、取り組んでください。	○学習目標の確認 臨地実習で遭遇するネガティブイベントについて討議することで，その対応と解決策について考察できる能力を養い，レジリエンスを向上させる ・レジリエンスシートの記入を確認する ○学習展開について説明する ・グループワーク ・ジクソー法によるワーク ・ロールプレイング	事前課題 ・レジリエンスシートへの記入 ・レジリエンスアンケート（演習前）の回答
展開	2. 臨地実習で遭遇するネガティブイベントについて討議する (1) グループワーク (2) グループ間でメンバーを移動 (3) ジグソー法により得た意見をグループメンバーに伝え，共有する 3. ＳＳＴを通して，活用できる能力を高める (1) ＳＳＴの方法を確認する (2) ＳＳＴを実施し，解決・対応策についてグループで話し合い考察を深める (3) ロールプレイで実演し発表する	・レジリエンスシートを活用する ・ネガティブイベントを取り扱うため，臨地実習に対する不安を増強させることがないよう適宜補足説明を行う。 グループワーク ４～５名/班 ○課題（生徒―指導者間） ○課題（生徒―患者間） ○課題（生徒―生徒間） ・ジクソー法によりグループ間の様々な意見交換が行えるよう，各グループを巡視する ・多角的に解決策や対応を考察できるよう支援する ・ＳＳＴの実施方法について説明 ・２～３班を１グループとする ・実演することで活用力へ	〔主体的に学習に取り組む態度〕 レジリエンス向上に向けて，自分の見いだした解決策を提案したりメンバーの良い意見を取り入れたりするなど，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	4. 学びをまとめ，班ごとに発表する	とつなげる。 ・発表を聞き，生徒たちだけでは出なかったよりよいネガティブイベントへの対処行動については教員が助言する	〔思考・判断・表現〕 各場面における適切な対処法について，相互の立場から考察し，正しく意見を伝えることや，相手を尊重した言い方などに気を付け対処法を見いだしている。
まとめ	5. まとめ ・<u>レジリエンスシートに学びを記入する</u>※ ・レジリエンスアンケート（演習後）実施	・ネガティブイベントへの解決策・対応策について，自分なりに活用してみようという気持ちになれるよう関わる	**※ここでは，レジリエンスシートの学びの記述を通して，〔思考・判断・表現〕の評価基準を下記のように設定し評価する。** A:演習を通じて看護臨地実習で出会うネガティブイベントについて，どのように対処すればよいかを自分の言葉で具体的に述べられている B:看護臨地実習でのネガティブイベントについてどのように対処すればよいかについて演習での意見を取り入れながらまとめている C:演習での学びを活用することなく，自分の意見のみ述べている 〔主体的に学習に取り組む態度〕 ネガティブイベントへの解決策・対応策を活用しながら今後の実習に臨んでいこうとしている。

６　経過

近年の生徒の様子を見ていると，ソーシャルスキルがうまく身に付けることができていないように感じる。相手の言動にばかりとらわれてしまい，言動の裏側の目に見えない「想い」に思いを馳せることができにくくなっているのではないか。また，指導場面や友人関係においても些細な言葉に傷つき，相手との距離を必要以上に取ってしまう傾向にある。

今回の演習においては，看護臨地実習を経験したことのない生徒に対し，看護臨地実習で出会うネガティブイベントについて説明すると「こんなことがあるの」「不安でしかない」など不安な様子が見られた。しかし，演習を進めていくと「そうなんだ。こうすればいいんだ」「気持ちが楽になった」と，前向きにネガティブイベントへの対処をとらえることができるようになっていった。また，グループワークやＳＳＴなどにより多くの意見に触れることで，多面的に物事をとらえることの大切さや，楽しさを感じ取ることができていた。

７　おわりに

看護臨地実習で，生徒が看護師や患者の言動に一喜一憂している場面を目にすることは多い。実習指導に同行している教員からすると，看護師や患者の厳しい言動はやむを得ないと理解できるが，社会経験の少ない生徒は戸惑うことが多く，時には実習意欲にも影響を与えていると思われる。レジリエンス演習後の看護臨地実習で，生徒たちは演習で行った場面に実際に多く遭遇した。その際，「演習の中でどうしたらよかったかな」と声を掛けると，「そうか，あー。こんな風に言えばよかった。」など場面を想起して前向きな発言が増え，行動変容した。このことはレジリエンスアンケートの結果から，資質的レジリエンス要因，獲得的レジリエンス要因ともに演習前と比較し，演習後や実習後に有意差がみられたことからも，社会経験の少ない生徒にとって，ストレスを抱きやすい場面を事前に体験し，対処行動を考えることにより，実習では看護師や患者に効果的にはたらきかけることにつながったと考える。

しかし，実際の臨床の場で起こるネガティブイベントを演習で体験させる内容には限界がある。また，教員も生徒の遭遇したネガティブイベントのすべてを把握できないのが現状である。そこで生徒自身がネガティブイベントを肯定的に捉えることができるよう，ネガティブイベントに遭遇した際には生徒とともに立ち止まり，状況を分析し考えることの大切さに気付かせながら，場面を冷静に振り返ることができるようなかかわりが必要である。時には教員の経験談等を伝えるなどし，生徒がイメージしやすく，また，ポジティブに受容ができるようにしたい。

演習シートは、本県の高等学校看護科・専攻科で構成される高等学校教育研究会看護部会において、研究に取り組み作成したものである。各学校から生徒の様子や指導上の課題などを情報交換しながら研究を進めている。今後も，実習でのネガティブイベントなどを整理し，よりよい演習をさせることで生徒のレジリエンスを高め，効果的な実習につなげていくために研究を重ね指導法を工夫していきたい。

なお、研究会では、「看護臨地実習指導書」も作成し先生方に活用していただいている。その中から、生徒の様々なケースを想定しての対応事例として作成したものを、【参考資料２】として紹介したい。

【参考資料１】レジリエンスシート

看護科２年　看護臨地実習（校内）

レジリエンスを高めよう

看護科（　　）年　（　　）組　番号（　　）氏名（　　）

【学習の目的】

看護実習生が体験した、困ってしまった場面を取り上げました。

それぞれの場面に対して、どのように対応すると解決ができるかを考え、レジリエンスの向上を図ります。やりがいのある楽しい実習につながる力が身につくように、しっかり考え、取り組んでください。

【学習の進め方】

1）次のページから、看護臨地実習での一場面があります。

空白の に、どのように返事をするのか、自分の言葉を入れてみましょう。

2）グループで、意見交換をしてみましょう。

3）意見交換後、自分の言葉の修正があれば、青で記入しましょう。

4）いろいろな考え方に触れ、考えたこと、学んだことを にまとめましょう。

【場面１】急な検査で、計画していた援助が実施できなかった

考えたこと・学んだこと

【場面２】指導者Ａさんと指導者Ｂさんの指導が違った

考えたこと・学んだこと

【場面３】足浴の約束をして訪室したが、断られた

考えたこと・学んだこと

【場面４】指導者が忙しそうで、報告できない

患者さんが発熱していた。
早く報告しなきゃ！！

報告よろしいですか？

考えたこと・学んだこと

【場面５】チームとして良好な人間関係を維持し、お互い助け合う
Ａさんに、声をかけてみよう。

考えたこと・学んだこと

【場面６】認知機能の低下した患者さんに話が通じなくて体温計をはさんでいただけない。

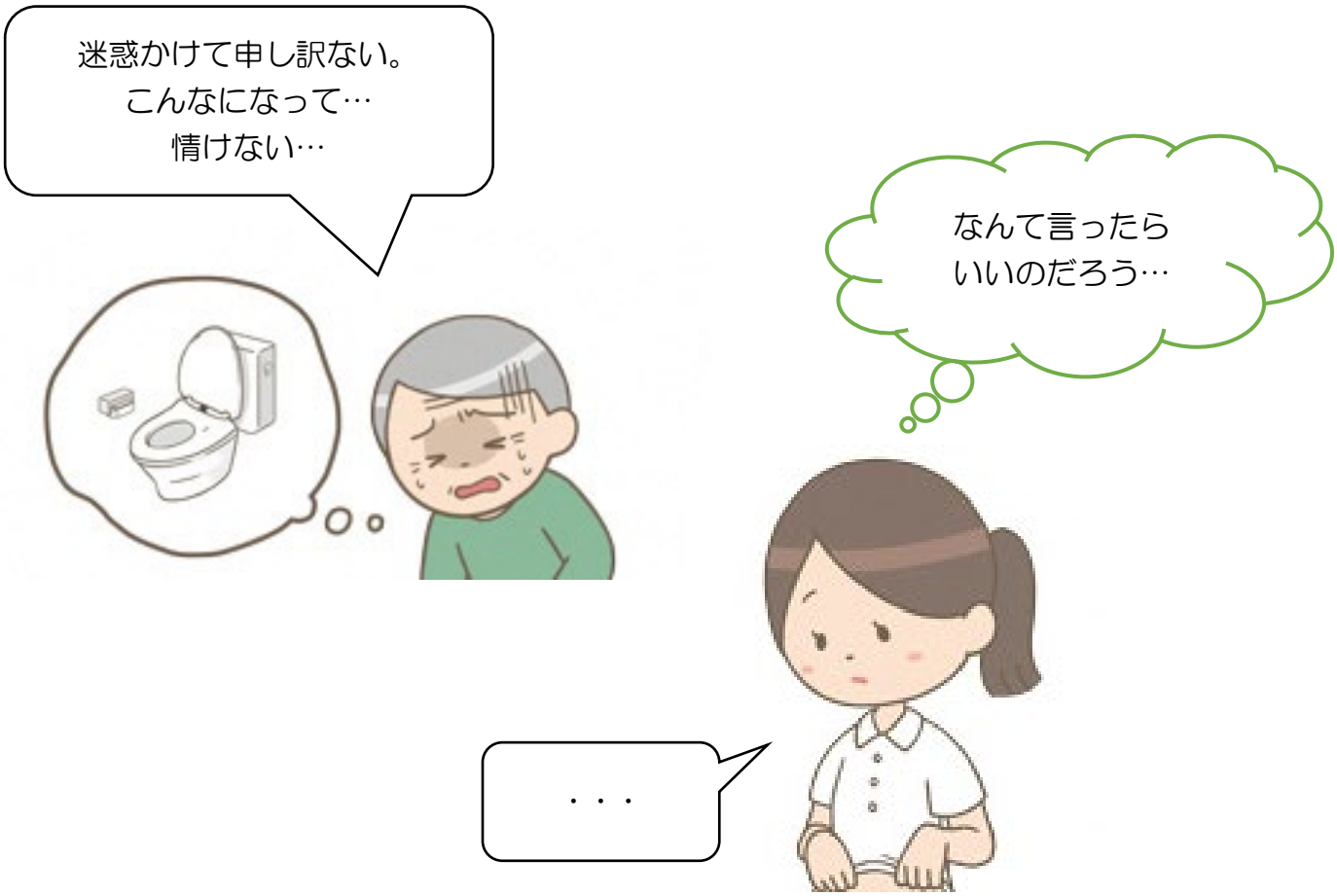
考えたこと・学んだこと

【場面７】患者さんと約束した援助を実施するために訪室。患者さんはぐっすり眠っている。

援助が実施できるように、指導者さんにどのように相談するとよい？

考えたこと・学んだこと

【場面８】排泄の援助時、患者さんが涙を流して、つらい気持ちを話された。



どのように声をかけたらよかった？

考えたこと・学んだこと

【場面９】指導者さんに今日の実習計画を発表して、助言を受けた場面

どのように指導者さんに伝えればよかった？

考えたこと・学んだこと

【場面１０】記録が書けなくて、休みたい様子の友人からの連絡

考えたこと・学んだこと

【場面１１】実習記録を写させてほしいと友人に頼まれた

考えたこと・学んだこと

【参考資料２】

実習時の対応

事前に想定できることは、校内、打ち合わせ会などで申し合わせておくことが大切である。
専門的な治療が必要な場合は、年度当初から計画的に受診・治療を促し、経過を確認、把握する。

１）健康管理について

【ケース１】やむを得ない事情で、入院・手術などが実習期間中にかかる場合
≪対　応≫
（１）診断書を提出させる。
（２）後日、補充実習を実施するなど、単位認定への配慮をする。

【ケース２】頭痛、腹痛、嘔吐、下痢などの症状を訴える場合
※感染症予防の観点からフローチャートなどを作成し臨地側とも協議し対応していく。
≪対　応≫
（１）頭痛、発熱、腹痛
①発生状況、随伴症状など聞く。
②持参薬があれば内服状況などを確認し対応する。
③受診の必要がある場合は、学校・保護者へ連絡し受診する。
④受診後は、確認できる書類を提出させる。
⑤発熱を伴う場合は、実習を停止し療養させる。

（２）嘔吐、下痢
①発生状況、随伴症状を聞く。発熱の有無にかかわらず、実習を停止し、控室で待機させる。
②学校・保護者へ連絡し下校・受診を行う。
③後日、受診が確認できる書類を提出させる。
④実習の再開については、臨地実習指導責任者に確認をし、許可を得る。

【ケース３】過呼吸を起こす生徒の場合
普段から過呼吸症状があった。課題や人間関係など、心理的負担感が増すときに発症する。など
≪対　応≫
（１）控室で休養させ、落ち着くのを待つ。症状を助長させないように静かに見守る。
（２）繰り返しそうな場合、無理に頑張らせないことが大切である。本人・保護者に相談し対応する。
（３）過呼吸の発生と自己の状況とを振り返り改めて対応法を考えていくなど、不安軽減に努める。

【ケース４】てんかん発作があり、内服治療中の場合
≪対　応≫
（１）学校と臨地側で安全に実習ができるよう情報を共有する。
（２）実習前の指導
①かかりつけ医を受診する。：実習を想定した内服薬の調整など
②本人および引率者は、発作の予兆・症状の経過をなど認識・把握する。
③実習期間中は必要な情報文書を必携してお結用、準備・確認する。
（お薬手帳・保険証コピー・保護者連絡先・かかりつけ病院など）
④保護者面談を行う。：③の準備、確実な内服・規則正しい生活・睡眠時間の確保などの協力体制
⑤発作時の対応やサポート体制、連絡体制の確認をする。
（３）実習中の指導
①日々、体調観察を行う。
②発作時は事前に決めた対応をする。

【ケース５】皮膚疾患のため、感染リスクの高い生徒の場合

皮膚疾患が実習前に悪化し、上肢全体、手指がただれ、肘関節部や耳介は糜爛や出血がある。手指の消毒やディスポーザブル手袋を装着すると皮膚障害を生ずる。など

≪対　応≫

（１）皮膚科受診の有無を確認し、専門的な治療を計画的に受けさせて改善を図る。
（２）皮膚障害や出血の目立つ部位はアンダーシャツの着用など、施設側に許可を得る。
（３）手指消毒、手袋の庄着などについては、臨地側と対応法など協議を行っておく。
（４）感染リスクが高いため、生徒自身にも体液・血液の曝露などの危険性をよく認識させる。

２）生徒指導上の特別な配慮について

【ケース６】何度も同じことを繰り返し、危険回避が難しいと判断され受持ちを外れる場合

≪対　応≫

（１）受持ちを外れる理由を一緒に考える。
（２）不得手としていることや事故につながりやすい行動を本人と一緒に把握する。
（３）得手とすることを伸ばす指導をする。（自尊感情の低下に伴う二次障害を防止する）
（４）教員間および臨地実習指導者と（２）を共有する。
　　（具体例）口頭指示が聞き取れない→文字や図・表の活用、メモを活用、指示の復唱確認など指導上の工夫
（５）可能な範囲で、新たな患者を選定するなど実習の調整を図る。
（６）生徒の行動等出来事は詳細に記録する。
（７）必要に応じ、保護者と面談し、関係者と連携し指導体制を整える。

３）提出物に関するもの

提出物に関する指導は事前に打ち合わせておき、教員間で統一した指導を行うことが重要である。

記録物が不十分な理由は、「前夜、寝てしまったので書けなかった」、「記録を忘れてきた」、「記録を汚してしまって持ってこられない」、「用紙がなくなった」など様々挙がる。

【ケース７】日々、白紙に近い記録がつづく場合

≪対　応≫

（１）優先順位を明確にしながら、実習と記録に取り組ませる。（不要な実習停止は控える）
（２）記録が書けないことで、生徒が大変苦しい思いをしていることを受容する。
（３）記録物がかけない理由を本人と一緒に把握する。
（４）どのように指導を受けて現状を改善したいと願っているか、確認しながら指導する。
　　一緒に対策を考える。
　　※記録物が遠因となり、意欲減退や進路変更に結び付く場合もある。

詳細例１）実習中、自分が何を学べたかわからない。
　　実習が充実するよう、実習計画では。具体的な目標を１つでもあげさせるなど工夫する。
　　援助項目のうち１つは必ず実践できるよう実習指導者と調整し、援助後は学べたことを一緒に考え、振り返りとする。

詳細例２）学べたことを口頭では説明できるが、記録は書けない。
　　口頭で説明できたことをその場でメモにまとめさせる。メモを記録に生かしていた時は、成果として褒める。記録に自信がつくよう関わる。

（１年基礎看護）
読解力・表現力の育成を目指した指導
～「看護覚え書」をテーマとしたワークシートによる学習を通して～

単元名　看護の本質（看護の意義）	〔指導項目〕 (1) 看護の本質　ア　看護の意義

１　単元の目標

(1) 看護の基本的な概念について理解し，それらを看護の向上に寄与していくために必要となる技術を身に付ける。
(2) 看護の本質に関わる課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだす。
(3) 看護の本質を深く理解するために自ら学び，人々の健康を目指して主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・看護の基本的な概念について理解している。 ・基本的な概念を看護の向上に寄与していくために必要となる技術を身に付けている。	看護の本質に関わる課題を発見し認識を深め，倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。	看護の本質を深く理解するために自ら学び，人々の健康を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要とねらい

（１）単元の概要

本単元は，看護の起源と変遷，看護の考え方の基盤となる看護理論について学習することを通して，看護の向上に寄与する態度を育てることをねらいとしている。第三次は様々な看護理論を学習していくが，同時に，『看護覚え書』を読み解き思考を深める課題に取り組む。本時は，これまでの課題学習のまとめとして，看護の本来の機能に基づく援助（「看護であること」）とは何かを考え，看護観を養う機会とするものである。

（２）生徒について

５年一貫課程の１年生である生徒たちは，専門科目としてこの「基礎看護」を学習している。初めて，看護について学ぶため，非常に興味を持ち，関心も高い。看護を学び始めたばかりの時期であり，患者や家族の視点・立場から看護を捉える傾向にある。このような視点を生かしつつ，看護本来の機能に基づく援助とは何かを考え，専門職者としての看護独自の機能を見いだしていくことは，生徒の看護に向かう姿勢の基盤となっている。

また，新学習指導要領となり，中学校でグループ活動やグループ発表を多く経験し，毎時間，授業の振り返りシート等で「書く」活動を行ってきた生徒である。したがって，これらの活動に対しては主体的に取り組むことができ，看護の視点を示唆することで，思考が深まる生徒が多い。

（３）学習活動について

ねらいに即し，思考を深めていくためには『看護覚え書』をしっかりと読解できなくてはならない。そこでワークシートは，はじめに本文を要約し内容を把握したのちに，漢字に置き換えていくことで考えを深めていけるような構成とした。課題学習の進度は，本単元の学習内容や，「日常生活の援助」の内容と関連づけ学べるよう調整したため，生徒は興味を持ち意欲的に進めていくことができていた。

本時は，全15回の課題が終わったのちに，まとめワークとしてグループで協議を行うことで，多様な視点で看護について考えを出し合い，思考を深めていけるよう位置づけ展開している。

（４）単元の指導計画（全 10 時間）

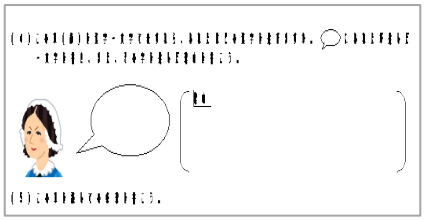
１．看護の起源と変遷　　（２時間）
２．看護の定義　　（１時間）
３．看護理論　　（５時間）※課題学習として『看護覚え書』ワークシートに取り組む
４．看護の意義　　（２時間）本時

４　テーマ「読解力・表現力の育成を目指した指導」について

実習記録の記載における課題として，アセスメント等でうまく表現ができない，収集した患者情報を，既往歴や処置，病状等を関連づけてまとめていくことに時間がかかることなどがあった。

情報を読み取る力，自分がどのように考えているのかという思考過程を論理的に表現する力，情報を客観的かつ他者にも分かるように表現する力等の育成は，実習記録を用いた紙面事例の演習だけでなく，さまざまな教科・科目・単元を通して繰り返し行うことで身に付くものと考えられる。本テーマは，看護科のねらいに即した単元の学習活動の中においても，読解力・表現力の育成を目指した指導を意識的に取り入れられるのではないかと考え，設定したものである。

５　学習活動の展開

展開	ねらい・学習活動等	指導上の留意点	備考，評価の観点・方法など
課題学習 15回	**【ねらい】** **①『看護覚え書』に触れることで，看護の本質について考える機会とする。** **②「読む，まとめる，自分の考えや思いを書く」という学習活動を通して，読解力・表現力を身に付ける。**		
	※第１回目は，授業の中で説明しながら取り組む。 1．看護覚え書ワークシートの構成を知り，取り組む。 (1) 抜粋した部分を読み，気になった言葉や箇所，「なるほど」と思った個所にマーカーを引く。 (2) 内容を 30 字程度に要約する。 (3) 章（書）で伝えようとしていることを考え，まとめる。 (4) 内容を漢字一文字で表し，その理由を書く。 	・重要な部分や伝えようとしていることにマーカーを引かせ，一語一句意識しながら読み込ませる。 ・「話題」に着目した要約トレーニングを取り入れる。 ・「結論」に着目した要約トレーニングを取り入れる。 ・原文の章の見出しは提示せず，生徒が感じたままに表現させる。一文字で表すこと，そして，その理由を書かせることで，看護の本質について考えさせる。	評価方法： ワークシートの記述内容 評価の観点： **※読解力として** **〔知識・技術〕** **既習の学習を踏まえながら，看護の本質を捉え，考えをまとめている。** 〔思考・判断・表現〕 看護の本質について，自分の考えを，根拠を明らかにしながら表現している。

	（5）基礎看護で学習した援助と関連付けながら感想を書く。	・看護理論や基礎看護技術の授業での学びと関連付け，考えさせる。 ・生徒の発見や気づき，見解を大切にする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 看護の本来の機能に基づく援助について自ら考え，課題学習に主体的に取り組もうとしている。
2 時 間	**【ねらい】** **看護の本来の機能に基づく援助（「看護であること」）について考えを出し合い，多様な視点から看護を捉え，思考を深める。**		
	1.『看護覚え書』から，看護の本来の機能に基づく援助（『看護であること』）を抜き出し，整理する。 **・教科書 p17．最後の行～，「看護の本来の機能」**を読み，看護であるとは「看護の本来の機能」に基づく援助であることを確認する。	・『看護覚え書』まとめシートを使用する。 ・校内実習（日常生活の援助技術）での感想や気づきを想起させ，学習活動に生かす。	教材： 看護覚え書まとめシート 付箋，マジック，模造紙
	2.「患者が看護者に求める看護」について考える。 (1) ＫＪ法を活用して話し合う。 ①看護の本質で学んだことをふまえ，患者が看護者に求める看護は何かを考え，付箋に記入する（個別）。 ②付箋をグルーピングする。 ③グループを並び替え，整理する。 ④全体をまとめる。 (2) グループ学習での協議内容を発表し，共有する。	・『看護覚え書』まとめシートも参考に考えさせる。 ・考えを可視化し，整理できるよう，付箋１枚につき１つの考えを記入させる。 ・自由に意見を述べられるよう学習環境を整える。 ・多様な見解を得るため，少数意見も大切しながら考えを共有する。	評価の方法： グループ活動の様子 まとめシートの記述 評価の観点： 〔思考・判断・表現〕 『看護であること』について，様々な援助を例に考えまとめ，表現している。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 人々の健康を目指した看護のあり方について自ら学び，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	3. 学習を振り返り，『看護であること』について考えをまとめ書く。	・まとめた模造紙は撮影しタブレット端末に保存させ今後の参考とする。	

６　経過

看護実習記録は，医療に関する知識はもちろんのこと，観察力やアセスメント力，読解力や表現力など多くの能力を統合させて作成されるものである。そして，生徒の健康観や家族観，看護観といった価値観も反映される。したがって，看護者としての資質・能力や価値観を育成していかなければならない。

そこで，これらの能力のうち，読解力・表現力を育成する取り組みの一つとして，『看護覚え書』をテーマとしたワークシートによる学習を取り入れた。初学者である生徒にとって，『看護覚え書』は看護の本質を問い，考えるには適切な教材であった。また，『看護覚え書』を章ごとに分けて読むことで，要約トレー

ニングを繰り返し行うことができた。全15回の課題学習であることから，生徒にとって過重負担とならないよう，１回のワークシートをＡ４版１枚にまとめた。さらに１回の文章量についても，抜粋部分としたり，２～３回に分けてのものとしたりなど，調整し工夫した。

読解力を向上させるには，要約の練習が有効である。長い文章を要約するには，単語の意味や著者の主張を正しく理解し，言葉を別の言葉に置き換えることが求められる。そのため，要約トレーニングを繰り返すことによって，読解力が養われる。その際，「話題」（何について述べているのか）と「結論」（何を言いたいのか）に着目し要約すると効果的であり，「重要だ」「面白い」と感じる箇所に線を引きながら読むことも要約と似ており，読解力を高めるといわれている。ワークシートの作成に当たっては，この点に配慮した構成とした。

単元「看護の本質」では，看護の歴史や定義，看護理論において学んだことを，看護援助にあてはめ考え探究し，理解を深める学習活動を行っている。ワークシートの記述内容からはその成果が読み取れ，回数を重ねるにつれ，看護の本質に迫るものへと変化していった。生徒からも，「ナイチンゲールの考えに対して，自分の意見を書くことで，自分自身の考えも深まった。」「どんな看護師になりたいかを考えることができた。」，「医療に携わる者としての考え方が変わった。」「看護とは何かを考える機会になった。」などの感想が聞かれた。

グループ学習においても，活発に意見を発し，真剣に話し合う姿が見られた。生徒から抽出された，〈患者が看護者に求めること〉は多岐にわたり，それに応えるために看護者に求められる資質・能力についても，意見が出された。グループで話し合い，まとめ，発表することで，看護に対する考えや思いが刺激され，学びにつながったと考える。

７　おわりに

『看護覚え書』をテーマにワークシートによる学習を行った成果として，生徒が主体的に家庭学習を活用し課題に取り組むなかで，看護の本質について考える機会となり，看護に対する理解が深まったといえる。また，文章を要約する，自分の考えを述べるなどの活動を継続的に行ったことで，自分の考えや思いを文章化しまとめる機会が増え，苦手意識も低くなってきたように思う。今度も読解力・表現力の育成に向け，様々な教科・科目・単元で，横断的に取り組んでいきたい。

（参考資料）

（１）看護覚え書ワーク

看護学概論　「看護覚え書」ワークシート（第　　回）　　実施日　　月　　日

（１）第（　　）章の一部分を抜粋しました。読みながら，気になった言葉・箇所や「なるほど」と思った言葉・箇所にマーカー（または赤色で下線）を引いてみよう。

不必要な物音や，心のなかに何か予感や期待などをかき立てるような物音は，患者に害を与える音である。音が病人に悪影響をおよぼすと思われるばあい，それは，耳という器官に伝わる刺激の強さ，つまり音の大きさであることはめったにない。たとえは，患者は，家の隣で建築の足場を築いているような大きな音には一般によく耐えられるものだが，そんな患者も，ドアの外の話し声，とくに聞き慣れた人の囁き声などにはとても耐えられないのである。

（中略）

まして，これが病室内でのひそひそ話となると，もう残酷以外の何ものでもない。患者が本能的にそれを聞こうとして，いやが上にも緊張を高めることは避け難いからである。これとまったく同じ理由から，つま先立ちで歩いたり，何をするにしても病室内でことさらにゆっくりした動作をしたりすることは，患者に害を与える。しっかりした軽やかで敏捷な歩調と，着実にして素早い手の動きが切実に求められているのである。のろのろ，こそこそした忍び足や，おずおずと頼りなさげな手つきなどはいけない。

「看護覚え書」より抜粋

（２）この章（節）には、何が書かれていましたか。30 字以内で要約しよう。

（３）この章（節）で、ナイチンゲールが伝えたかったことは何でしょう。

ナイチンゲールが我々に伝えたかったことは、

ということです。

（４）この章（節）を漢字一文字で表すなら，あなたはどの漢字を選びますか。 にあなたが選んだ一文字を書き，また，その字を選んだ理由を書こう。

理由

（５）この章を読んでの感想を書こう。

出席番号　　氏名

（２）看護覚え書まとめシート

ナイチンゲール著『看護覚え書』まとめシート　「看護であること・看護でないこと」を考えよう

『看護覚え書』を読み進めた中で、「看護であること」をまとめてみよう。その理由も考えましょう。

	看護であること	その理由
第１回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		

感想

（１年基礎看護）
看護技術の効果的な習得を目指したＩＣＴの活用

単元名　病床環境の調整	〔指導項目〕 （３）日常生活の援助　　イ　環境調整

１　単元の目標

⑴ 人々の健康にとって望ましい環境条件とその調整について理解するとともに，関連する技術を身に付ける。

⑵ 療養の場に応じた生活環境の調整について基本的な課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだす。

⑶ 療養の場に応じた生活環境の調整について自ら学び，人々が望ましい環境のもと生活できるよう主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人々にとって望ましい環境条件とその調整について理解している。 ・望ましい環境を調整するための関連する技術を身に付けている。	療養の場に応じた生活環境の調整について，事例を用いた演習やグループワークを通して思考を深め，基本的な課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。	療養の場に応じた生活環境の調整について関心を持ち，事例を用いた演習やグループワークに主体的に取り組み，人々が望ましい環境のもと生活できるよう自ら学び，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要とねらい

（１）単元について

本単元は，人々の健康にとって望ましい環境条件及び環境条件が健康に及ぼす影響を踏まえ，療養の場に応じて生活環境を整えるために必要となる基本的な知識と技術を習得し，活用できるようにすることをねらいとしている。患者にとって１日の生活の場となるベッドを整えるベッドメイキングは，患者の安静の保持，疲労の回復，疾病の回復の促進のために，ベッドやリネン類を整えベッドの周囲の環境を整える，基本的かつ必要な技術である。

（２）生徒について

５年一貫課程である本校は，入学時から全員が個人用タブレット端末を持ち，電子書籍や学習ソフトの使用，クラウド型学習支援システムの活用，Ｗｅｂによる連絡，テスト，ポートフォリオ，双方向型授業，アンケート集計などにおいて活用し慣れている。授業でも操作に迷うことなく，積極的に活用できる。今回のベッドメイキングは１年生にとって初めての演習項目であり，事前に動画を視聴しイメージトレーニングを行うなど，真面目に取り組んできた。単元のまとめとして初の実技試験も予定されている。

（３）学習活動について

本単元では，個人用端末を活用し，実技場面を撮影・再生し客観的に振り返ることや，グループで視聴し意見交換する中で学びの気づきの機会を増やすことなどを試みた。また，主体的な学びとしていくために，環境調整のためのベッドメイキングについて，自ら設定した課題の解決に向けての振り返りに加え，グループで協議を行い改善点の検討を図るなど，協働的な解決が行えるよう工夫した。

また，個人用端末のポートフォリオ機能を活用し，自己の成長を実感し振り返りに活かせるようした。

（４）単元の指導計画（全 18 時間）

１．　健康と環境　　（１時間）（講義・グループワーク）
２．　病院と環境　　（３時間）（講義・グループワーク）
３．病床および周囲の生活環境　　（３時間）（講義・演習）

４．ベッドメイキング演習１　　（３時間）（演習）
５．ベッドメイキング演習２　　（３時間）（演習）本時
６．ベッドメイキング実技試験　　（３時間）（演習）
７．療養環境としての人間関係の調整　（２時間）（講義・グループワーク）

４　テーマ「看護技術の効果的な習得を目指したＩＣＴの活用」について

看護技術の習得のためには，手順を踏まえて実施することはもちろん，物品の取り扱い方や身体の使い方など，自分では気づかない点を教えてもらったり，違う視点で教えあったりなどすることが有効である。しかし今回は，新型コロナウイルス感染症対策のため，実習室での演習を分散させたり，密を避け行動させたりなど様々な制限があった。そのため，ＩＣＴを活用し，実技場面を動画で再生し効率的にグループ協議を行う，分散のため別室にいる生徒は，Ｌｉｖｅ配信の視聴や，共有ファイルに「みんなのいいところ」の感想を書き参加するなど，様々な形で活発な協議を促し，看護技術の効果的な習得を目指した授業を展開できるよう工夫した。

５　学習活動の展開（３時間）

<table>
<tr><th>展開</th><th>ねらい・学習活動等</th><th>指導上の留意点</th><th>備考，評価の観点・方法など</th></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">グループは４人編成とし，次のように役割を代えながら４展開実施する。
＜生徒の配置・展開＞
１展開 20 分・・４展開実施
<table>
<tr><th></th><th>１展開</th><th>２展開</th><th>３展開</th><th>４展開</th></tr>
<tr><td>生徒 A</td><td>看護師</td><td>別室で視聴</td><td>サポート</td><td>チェック</td></tr>
<tr><td>生徒 B</td><td>チェック</td><td>看護師</td><td>別室で視聴</td><td>サポート</td></tr>
<tr><td>生徒 C</td><td>サポート</td><td>チェック</td><td>看護師</td><td>別室で視聴</td></tr>
<tr><td>生徒 D</td><td>別室で視聴</td><td>サポート</td><td>チェック</td><td>看護師</td></tr>
</table>
【役割】
看護師　：実技を行う。
チェック：個人用タブレット端末で看護師役の手技を撮影する。
サポート：看護師役と一緒にリネンをたたみ，サポートする。
別室で視聴：クラウド型学習支援システム実習室の様子を視聴し，コメントを入力する。</td></tr>
<tr><td>実習室と別室に</td><td colspan="3">【ねらい】安全で安楽な寝心地の良い適切な病床環境とするために，効率と活動導線の無駄がないように手順を工夫し考え，ベッドメイキングを行う。</td></tr>
<tr><td></td><td>＜実習室での展開＞
1．ベッド毎のグループとなり，互いに本日の実習目標を発表し合い，目標を共有する。</td><td>・生徒同士の発表を聞く姿勢か確認する。
・グループ間を回りながら，身だしなみが整っているか確認する。</td><td>［知識・技術］
ベッドメイキングの基本的な手技を身に付けている。
適切にボディメカニクスを活用し実施している。</td></tr>
<tr><td></td><td>2．ベッドメイキングのチェックリスト(参考資料１)に沿って作成する。
・20 分以内でクローズドベ</td><td>・ＴＴで分担しベッドをラウンドする。
・ボディメカニクスの姿勢を中心に指導する。</td><td></td></tr>
</table>

分かれて演習	ッドを作成する。 ・手技の根拠を理解して行動する。 ・ほこりがたたないよう，リネン類を扱う。 ・ボディメカニクスを活用し，効率と活動導線の無駄がない動きをする。	・患者が臥床することを想起させ，崩れにくく耐久性のあるベッドが作れるよう指導する。 ・チェック者が，看護師役の手技を撮影できているか確認する。 ・配慮が必要な生徒へは具体的な指示をして直接指導する。 ・必要に応じて，実習室内にデモンストレーションで撮影した動画をテレビに映し出す。	 ［思考・判断・表現］ 手順が寝心地の良い病床環境調整の援助となっている根拠を明らかにしながら，行動している。 ［思考・判断・表現］ 患者の視点からみた寝心地が良い病床環境とし整えていくために必要な工夫点を考えている。
	3．撮影した映像をチェック者が再生し，寝心地が良い病床環境のためのベッドメイキングのポイント・改善策を看護師・チェック・サポートの３人で意見交換をし，共有する。 ・シワがなく安楽で寝心地の良いベッドであるか。 ・崩れにくく耐久性があるか。 ・中心が揃い，左右対称であるか。 ・外観が良いか。 ・活動導線は無駄がないか。 ・ボディメカニクスを活用していたか。 ・ほこりを巻き上げずリネン類を扱えたか。 ・ベッドの頭部から足部にかけて広げられたか。	・グループメンバー同士のよりよい人間関係が築けているか確認する。 ・課題を共有し，解決に向けて主体的に学べるよう，対話的活動が活発に行われるよう関わる。 ・グループで話し合うときには，ポジティブフィードバック，アクティブリスニング，オーバーコミュニケーションの３要素を意識して行うよう指導する。	 ［主体的に学習に取り組む態度］ さらに寝心地が良い病床環境とするための工夫点を，耐久性や清潔，美観を保つことなどに着目し見いだすことができるよう，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	＜別室での展開＞ クラウド型学習支援システムを活用し，実習室からＬｉｖｅ配信された実習の映像を視聴する。 ・配信された映像を別室のテレビモニターで視聴し，「みんなのいいところ」を見つけ，個人のタブレット端末からワークシート(参考資料2）に入力する。 ※ワークシートは，事前配信したものであり，入力した内容はリアルタイムに反映され共有される。	・実習室で映像を撮影している教員と別室で監督している教員とで連携し，展開を進める。 ・映像を視聴している生徒の関心が向くよう，教員は実習室カメラに向かい話しかける。 ・ワークシートへの記入ができない生徒については，ポジティブフィードバックが得られるよう具体的な指示をして直接指導する。	 ［主体的に学習に取り組む態度］ さらに寝心地が良い病床環境とするために，耐久性や清潔，美観などを保つための工夫点など見いだすために，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
ま と め	**【ねらい】生徒自身の学びと，メンバーの意見交換，ワークシートからの「よいところ」の気づきから，病床環境を整えるベッドメイキングの見方や考え方を発展させる。** 4. 実習終了後，実技を行なった学びや気づき，グループでの意見交換，共有のワークシートの内容から，ポートフォリオ(参考資料3)に入力する。	・「ベッドメイキングを終えて」のフォームは事前に配信しておく。 ・記載方法は自由とする。	［主体的に学習に取り組む態度］ ベッドメイキングの実習を終えて得た気づきや学びを主体的に振り返り，工夫点・改善点を次回の実習に生かそうとしている。

６　経過

本時は，ベッドメイキングの実技場面を動画で撮影し，実技後に視聴することで客観的に振り返られるように工夫した。生徒が作成したポートフォリオには，「撮ってもらったビデオを後で見返した時に，腰の位置が高かったり低かったりして位置が定まっていなかったので，自分はまだボディメカニクスを活用しきれていないと感じた。」「自分がベッドメイキングをしている様子を第三者の目線から見ることで，ベッドに手をついてしまっていたり，シーツを撫でたりしてしまっていることに気づけた。」など書かれ，振り返りとともに，次回に向けた気づきを得ることができていた。

そのほかにも，「特に角が綺麗に作れていなかったので，放課後の実習の時によく練習したい。」「映像を見ると，三角に折り込む際に毎回腰から体が折れていた。この姿勢をとっていると腰が痛くなる元になると感じたため膝を使って体全体で下がることを忘れないよう注意する。」など，見直したい行動が具体的となり，次回の目標が明確になっている生徒もいた。目標が明確になることで，その後の放課後演習への参加も主体的にできるようになっていた。

また，映像ではベッドを含めた病床環境全体がイメージできた。練習では患者さんが臥床しているわけではないが，「自分のベッドを作る映像を見て，少し雑になっていると気がついた。時間も大事だけれど，患者さんの過ごしやすいベッドを作るのが目的なので，時間も意識しつつ丁寧にベッドを作っていきたい」と，患者さんのイメージを重ね振り返ることができた生徒もいた。実技試験が目の前で，試験という課題のクリアに焦点を向けてしまいがちであるが，映像が実技全体を俯瞰的に見ることにつながり，患者にとって望ましい病床環境を調整することが看護の目的であることに改めて気づけた様子が見られた。

さらにポートフォリオに，「友達の意見から，自分ができない，またはできた点について，視野を広げて反省することができた」「自分が直さなければいけないところを，前よりもたくさん見つけることができた」と書いた生徒がいた。これは，自分では気づきにくい部分の視野を広げることに繋がったと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対策によって授業時間や練習時間を例年より減少せざるをえなかったが，本時のあとに実施したベッドメイキング実技試験での合格者は，例年と同率の合格者であった。気づきを多く取り上げ，主体的に取り組む姿勢を生み出すことで，学習の効率化へ繋がったと考えられる。

７　おわりに

実技場面を撮影し再生，確認することで，自分の実技を客観視し，イメージしていた理想の自分像と，映し出される現実の自分の行動とを重ね，その違いの中に気づきを得ることができた。しかし，最初の展開では思うような気づきに至らなかったグループもあった。気づきの差は，チェック者がどのような視点を意識し，動画を撮ったかにあったようであった。つまり，シーツの角を作るところの姿勢や手つきに焦点を当てるなど，ベッドメイキングのポイントを理解して撮影できたグループは，改善の視点に沿って良い気づきが得られ，協議も活発に行えていたが，全体的な視点で撮影したグループではそこまでの気づきは得られなかった。

しかし，４展開連続して行うことで，撮影する動画の内容のポイントがわかるようになり，最後の展開では，どのグループでも良い気づきが得られた結果となった。これらより，気づきを得るためには，理想の自分像となる動きのイメージや，その根拠となる知識から，動画で撮影するポイント（改善のための視点）を理解していることが前提条件にあったと考える。講義内でしっかりと知識を定着し適宜振り返り強調していたことも，良い効果をもたらしたと言える。

主体的に学習に取り組む態度の評価をするにあたり，生徒間で話し合うことが難しい生徒に配慮して，共有のワークシートやポートフォリオからも評価ができるよう工夫した。ツールを変え，多方面から評価できるよう，方法論も含めこれからも工夫していきたい。

今後の課題は，ＩＣＴの効果的な活用に向けてソフト面の精選と，充実である。本校のＩＣＴ関連のハード面は，新型コロナウイルス対策で加速し，生徒への学習支援ツールはいくつもある。今回の事例も，デジタル学習ツール，資料共有ツール，課題管理ツールと，三つの学習ツールを使用し行なった。全ての教員が精通していけるよう，継続して教科研修を開き，互いの授業での活用事例を教員間で共有していくことが必要である。

そして，生徒への課題が重複しないよう，どのツールをどのタイミングでどのように活用していくのか，活用法を精選する必要もある。今回使用した実技チェックリストはプリントで配布した。課題管理ツールや資料共有ツールを使い配信する方法もあるが，低学年の生徒にとって，プリントの方が配布後すぐに書き込め，理解の手助けとなる利点を考え，この形をとった。このように，全てデジタル化するのではなく，生徒の背景を考え効果的な部分から取り入れていきたい。

（参考資料）

（１）ベッドメイキング　チェックリスト

日常生活と看護【ベッドメイキング】　　番　氏名

手順				項目	到達目標	根拠(下線部)
1	目的が言える	①	患者に安全で安楽な寝心地の良い病床を提供する.		・患者に安全で安楽な寝心地の良い病床を提供できるベッドである.	
2	準備ができる	①	必要物品を準備する	・マトレスパッド1枚 ・シーツ３枚 ・防水シーツ（ゴムシーツ）1枚 ・毛布１枚・スプレード１枚 ・枕　大２個　小１個 ・枕カバー　大２個　小１個	・速やかな行動で準備できる. ・シーツをたたむ時は、ホコリをたてないように配慮する.	なぜ？
		②	必要物品を上から使う順に重ねることができる	上から　マットレスパッド 下シーツ 防水シーツ（ゴムシーツ） 横シーツ 上シーツ 毛布 スプレード 枕カバー３枚	・リネンの輪を手前にし、順番どおりに揃えることができる. ・リネンの輪を手前にする意味が分かる.	なぜ？
		③	病床及び周辺の準備を整える	・窓を開ける. ・床頭台とイスをベッドから離す. ・ベッドのキャスターが内側に止まっているか確認する.	・シーツのホコリを考え環境に配慮することができる. ・確認をしていることがわかるように行動することができる.	なぜ？
3	クローズドベッドを作ることができる	①	マットレスパッドを敷く	・マットレスの頭側端に置き、広げる.	・中心が揃い、ホコリをたてないように気をつける.	なぜ？
		②	下シーツを敷く	患者の右側 ・中心点を合わせて広げ、シーツをマットレスの頭側下にいれ、角は三角に入れる. ・足側も同様に三角に入れる.	・手掌を下にして入れる. ・三角がきちっと入っている. ・しわがない. ・しわを伸ばす意味が分かる. ・ﾎﾞﾃﾞｨﾒｶﾆｸｽを活用できる. ・足元を入れるときは自分の殿部をベッドの頭側に向けない.＊	なぜ？
		③	防水シーツ（ゴムシーツ）を敷く	**患者の右側** ・ベッドのほぼ中央に敷く. (患者さんの状況により、ベッドがよごれやすい場所に敷く)	・ベッドに振動を与えない. ・十分な深さまで布を入れることができる. ・緩みがない.	なぜ？(＊同じ)
		④	横シーツを作り敷く	**患者の右側** ・横シーツを作る. ・ベッドの上端から20㎝のところに敷く.	・横シーツを作ることができる. ・置く位置・中心線を揃えることができる. ・ベッドに振動を与えない. ・ヘムをずらす意味が分かる.	なぜ？
		⑤	上シーツを掛ける	**患者の右側** ・上シーツを作り、ベッド上端より１㎝上にシーツのヘムを合わせて置く. ・足元にタックを作る。タックは足側より手一つ分のところに５～10㎝の長さでつくる. ・足側の角は四角に入れる.	・上シーツを作ることができる. ・置く位置・中心線を揃えることができる. ・ベッドに振動を与えない. ・足元の緩みの意味が分かる. ・四角に入れることができる.	なぜ？ なぜ？
		⑥	毛布を掛ける	**患者の右側** ・ベッドの上端から15㎝のところに置き全体に広げる. ・足元はタックを取らず、四角に入れる. ・頭側の上シーツを折り返し、襟を作る. ・ベッドより下がっている頭側の襟をベッドに軽くはさむ.	・置く位置・中心線を揃えることができる. ・しわがない. ・ベッドに振動を与えない. ・足元を四角に入れることができる. ・襟を作ることができる. ・タックを作らない意味が分かる.	なぜ？ なぜ？
		⑦	スプレードを掛ける	**患者の右側** ・ベッド上端ちょうどにスプレードを合わせて広げる. ・足側を三角に折り、下に降ろす.	・置く位置・中心線を揃えることができる. ・ベッドに振動を与えない. ・仕上がりが美しい.（しわがない）	
		⑧	患者の左側を作る	・患者の右側②～⑦に順ずる.	・左側へはベッドの足元を通る.＊	
		⑨	枕カバーを掛け、置く	・枕の大きさに合わせてカバーのあまった部分を処理する. ・枕カバーの口が床頭台の反対側に向くようにする.	・枕カバーはベッドの足元で掛ける＊ことができる. ・しわがない.	なぜ？
4	ベッド周囲を整えることができる	①	病床及び周辺を整えることができる	・床頭台とイスを元の位置に戻す. ・ナースコールを枕元に置く. ・窓を閉める.	・患者への配慮ができる. ・ナースコールや窓閉めは行っていることがわかるように行動する.	

（2）共有のワークシート「みんなのいいところ」

19回生　ベッドメーキング　みんなのいいところを見つけよう！

1ベッド	3ベッド	5ベッド	6ベッド	7ベッド	8ベッド	9ベッド	10ベッド	11ベッド	12ベッド	13ベッド
綺麗な畳み方ができている。			スプレードの三角が綺麗でしわもなくつくれていた	三角形がうまく作れていた。	素早くベッドメーキングができていてスプレードもきれいにできている。	ひとつひとつ丁寧でボディメカニクスもきちんとできている。	毛布が綺麗に四角に入っている	ボディメカニクスを意識してできている。	シワがなくとても綺麗にできている。	シワがなく綺麗なベッドができている。
ボディメカニクスがしっかりと出来ていた。	しわのないベッドが作れている。	姿勢が低く、シーツをしっかり引いてしわのないベッドを作っていました。	しわがないベッドが作れていた。		タックの太さが均等でとても綺麗にできていた。	ヘムをずらすところの過程がとても綺麗でした。動作も落ち着いてできていたと思います。	三角形が綺麗に作れていた。		無駄な動きがなくシワがなく素早くできていた。	
サブと主の看護師がしっかり協力してしわのない綺麗な畳み方をしている。	シーツにシワができない様にしっかり押さえながら綺麗な三角折りができていました。	シーツをしっかり押さえてしわがなく綺麗にできている。	下シーツの三角が綺麗にできている。			しっかり奥まで丁寧にシーツを伸ばしていた。	しわがなく、三角がとても丁寧に作られていて綺麗だった。	足元の毛布が盛り上がっていなくて綺麗でした。	ボディメカニクスをしっかり活用できていて、とても綺麗な姿勢で無駄のない動きでした。	毛布の四角形がとでも綺麗で、手際がいい
ボディメカニクスを応用しながら体の向きにも気を付けてきれいなベッドができている。	毛布の四角がとてもきれい	中心船が綺麗		反対側のスプレードを作るとき、シワができない様にしっかり引いて伸ばしていました。		シーツを裁くのが早くて綺麗にでき、置く場所も素早く決められていたと思う。	四角が綺麗につくれていた		タックが綺麗につくれている	シワがなく、三角が綺麗にできている
ボディメカニクスができている	スプレードの三角が綺麗にできていた。	下シーツの三角が綺麗にできていた。	きれいな三角ができていた	スプレードの三角がきれい		下シーツの三角が綺麗だった	スプレードの三角が綺麗で、毛布も出てなかった		ボディメカニクスをしっかりと活用出来ていた。	しわがなく
手際が良く、1つの行動が素早い。三角の作り方が綺麗	三角の作り方が上手	しわがなくて綺麗			手際が良い	一つ一つ丁寧な動きをしている。	毛布の四角が綺麗にできてた。	一つ一つの作業が丁寧	とても綺麗で丁寧でシワがない。	しわがなく綺麗だった
ボディメカニクスができていて手際も良くできていた	タックが均等に綺麗につくれていた		スプレードの三角が綺麗に出来ている。	一つひとつの動作を丁寧に出来ていた。	手掌を下にしてマットに入れ込むことが出来ていた。		ボディメカニクスをしっかり活用していた	タックが綺麗にできていた	動作が丁寧	三角形がとても綺麗に作れていた。
手際が良く綺麗にできていた。	三角形がとても綺麗にできていた。	したシーツをシワなくしけていて綺麗	しわがなくスプレッドの三角が出来ていました。			先生に言われたことをすぐに実践していた。		動きに無駄がない	無駄な動きがないように手を広げていた。	ベッドの盛り上がりがなくて綺麗
手際がいい	ボディメカニクスができていてきれいに四角が作れていた		しわなく作れていました	毛布の四角が綺麗につくれていて、しわもなくて、綺麗だった	ボディメカニクスができていて横シーツがきれいにいれられていた		きれいに三角を作れていた		横シーツを作るとき、ベッドの足側で作れていた。	ボディメカニクスを意識しているように見え、とても綺麗でした。
動きに無駄がなくて三角が綺麗	三角が綺麗にできている	下シーツを入れる時、奥まで腕を入れている	スプレードの三角が綺麗にできていた。		シワがなかった。	三角が綺麗で手際がいい	毛布の折り込みがとてもきれいでした。	毛布の四角が綺麗	タックを崩さないで四角をつくるのが上手だった	足元が盛り上がっていなくてシワもなくてきれいなベッドだと思いました。
シーツにしわがなくきれい		三角を綺麗に、丁寧に作っていた				ボディメカニクスを活用出来ていた。				しわがなく、スプレードの三角も綺麗だった
手際がよく、ひとつひとつの動作にメリハリがありました。	丁寧にベッドを作っている	ボディメカニクスができていて、シーツが綺麗にいれられていた		ボディメカニクスをしっかりと使って行えていた。	素早く綺麗なベッドを作れていてすごいと思いました。	無駄な動きがなかった	スプレッドを綺麗にしわなく出来ていた。	スプレードを広げるときに手を大きく使って広げていて良いと思った	ダックが真っ直ぐに出来ていた	スプレードの三角をきれいに入れられている

（3）ベッドメイキングを終えて　ポートフォリオ

×　ポートフォリオ

本文

今日の実習は、清潔を最も意識して行いました。患者さんの生活の場になるベッドを清潔に保つことが、患者さんに不快感を与えない方法の一つだと思ったからです。
そのために
・シーツを広げたり、畳んだりする際にシーツが服に触れない様にする
・シーツを広げた際にシーツの端が床につかない様にする
・自分の汗を垂らさない様にこまめに汗を拭く
・シーツを手で撫でない様にする
・リネン類を粘着ローラーを使ってきれいにする
ことを自分の中で具体的な目標として意識しました。たくさんのことを考えながらの実習だったので、大変でしたが、学びの多い実習になりました。また、動画を撮ってもらって、撮ってもらったビデオを後で見返した時に、腰の位置が高かったり低かったりして位置が定まっていなかったので、自分はまだボディメカニクスを活用し切れていないなと思いました。自分がベッドメーキングをしている様子を第三者の目線から見ることで、ベッドに手をついてしまっていたり、シーツを撫でたりしてしまっていることに気がつけました。それは、清潔なベッドを作るという私の目標を達成できていないと思うので、明日の放課後実習では、今日気づけたことをしっかり活かして、実技試験までには患者さんの寝心地の良い綺麗なベッドを作れる様に練習したいと思います。実技試験本番は20分という制限時間を十分に使い切るくらいの気持ちで丁寧に、誰が横になっても気持ちいいと感じてもらえる完璧なベッドを作りたいと思います。
　　を使っての実習、とても面白く、自分で自分のことを見られて気づきが多かったので、機会があったらまたやりたいです。

よくできた

（３年看護臨地実習）
校内と臨地の学びに継続性を持たせ，課題解決力を高めていくための工夫

単元名　看護臨地実習（成人看護）	〔指導項目〕 （２）領域別別看護臨地実習 ア　成人看護臨地実習

１　単元の目標

⑴ 成人看護における看護実践と理論を結びつけて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。
⑵ 成人看護における看護実践について多様な課題を発見し，倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす。
⑶ 成人看護における看護実践について自ら学び，人々の健康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
成人看護における看護実践と理論を結びつけ，理解している。 成人看護に関連する技術を身に付けている。	成人看護における看護実践について多様な課題を発見し，倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。	成人看護における看護実践について自ら学び，人々の健康を保持増進するために主体的かつ協動的に取り組もうとしている。

３　単元の概要とねらい

（１）単元について

看護臨地実習では，看護実践と結び付けて理解し，関連する技術を身に付けるために，学習段階のねらいに応じた課題を生徒が主体的に設定し取り組むことを目指している。本校においても，例年６週間の成人看護臨地実習を３年生において実施しているが，新型コロナウィルス感染症拡大の影響で臨地での実習日数が約半分に縮小され，代替として校内での実習を行うことになった。

（２）生徒について

本校は准看護師課程と専攻科２年看護師課程があり，３年生は，来年２月に准看護師資格試験を控えている。生徒たちは真面目で熱心に課題に取り組むことができるが，自ら考えて自主的に行動を行うことや，誤答を恐れてか，質問に対して即答することは少ない。しかし，紙面上であれば素直にリフレクションを表出できる。

病院での実習は，昨年度は新型コロナウィルス感染症の影響を受け，病院でのオリエンテーション，１日間の看護師のシャドーイング実習，患者様への挨拶を行ったのみであった。

（３）成人看護学（校内実習）における目標

本年度も感染症の影響を受け，成人看護実習（７単位）の半分の期間が校内での代替実習となったため，実習の目標を下記の通りとし，紙上事例について，看護過程の展開，疾病の自己管理に向けた支援策としてのパンフレットによる生活指導を行うこととした。成人看護についての座学は２年生ですでに終了していたため，紙上事例は，文献が多く，生徒が分かりやすい，慢性期の糖尿病の患者（Ａさん）とすることとし，事例に係る疾患・治療法・看護などは自主的な学習として進めていくようにした。

１．糖尿病の経過を知り，高血糖による心身の変化や症状，合併症などの病態や，当事者や家族が生活上受ける影響について理解するとともに，関連する技術を身に付ける。
２．糖尿病を自己管理し生活を続けるために必要な援助について課題を発見し，倫理観を踏まえて解決策を見いだす。
３．糖尿病を自己管理し生活を続けるために必要な援助について自ら学び，慢性疾患を抱えた人々の健

康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組む。

４　テーマ「校内と臨地の学びに継続性を持たせ，課題解決力を高めていくための工夫」について

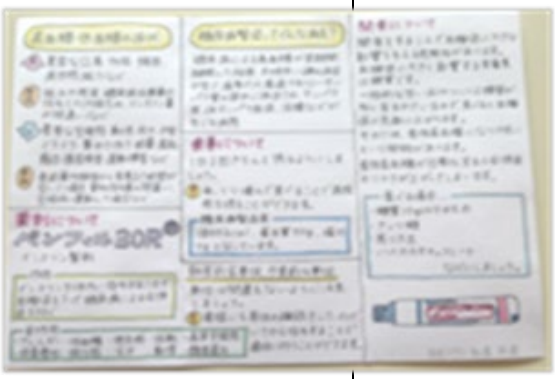
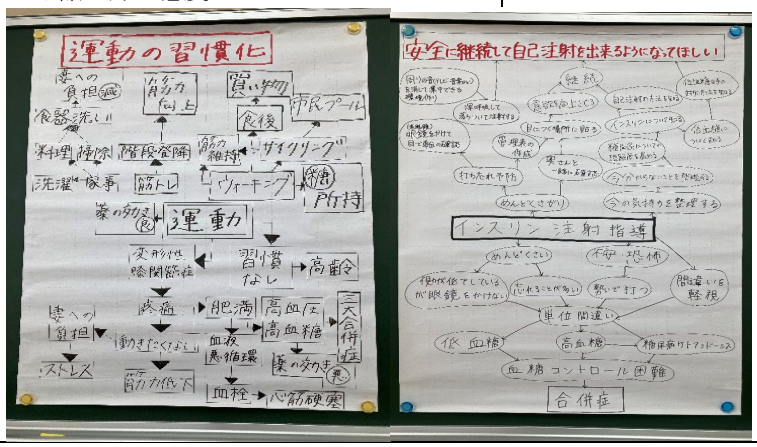
校内実習では，その後の臨地実習も見据えながら目標を設定し，看護過程の展開やパンフレットの作成などに取り組んだ。しかし実際には受動的な学習となってしまい，パンフレットを見直し改善するなど，粘り強く取り組む学習とすることができなかった。

生徒たちとの対話から，看護師の実際の姿や，患者さんと触れ合うこと，校内での実習になってしまった残念さ，など，様々なことが分かった。それらを受け，パンフレットに関連した健康行動の体験を行う，家族に体験的に保健指導を行う，新人看護師のＤＶＤを視聴するなど，活動を工夫して校内実習を行い，生徒たちからも，病院実習との継続性が感じられたとの回答を得ることができた。

これらの経験を踏まえ，生徒の主体性を喚起し，課題解決力を高めていくための，校内実習指導計画を見直し，再構成を図ることとした。

５　校内実習の指導計画（70 時間）

		ねらい・学習活動等	指導上の留意点	備考（評価の観点）
情報の整理・解釈	1	・膵臓の解剖生理，糖尿病の病態や治療法などを教科書や参考書で調べまとめる。 ・膵臓の解剖生理・糖尿病の患者の一般的な病態について確認する。 ・校内実習変更後の学習計画・目標を再確認する。	個別学習ののち，学習したことをグループ内で発表しあい，グループワークによる協働的な学習を進める。	〔知識・技術〕糖尿病の経過と，高血糖が及ぼす心身の変化や症状，合併症などの病態を理解している。
	2・3	・Ａさんについて，情報を整理し理解を深める。	Ａさんの情報用紙を配布し，臨地実習で用いる記録用紙に情報を整理しアセスメントを行う。 Ａさんに関して不足する情報は教師に質問する。	〔知識・技術〕 各視点に沿って情報を整理しまとめている。 〔思考・判断・表現〕 情報をもとにＡさんや家族のニーズや心身への影響を見いだしている。
	4	・成人学習理論(アンドラゴジー)について学習し，自己管理を目指した援助のための学習の重要性を考える。	成人教育の在り方を学び，自分達の援助者・学習者としての姿勢も自覚する。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 健康の保持増進のためにはどのような援助が必要か，自ら課題を見いだそうとしている。
対象の理解	5・6	・Ａさんが今後自己管理し生活を続けていくために必要な健康行動を考える。 ・グループごとに，Ａさんの１日の行動，服装や趣味なども具体的に設定し，イラストなども用いてまとめ，理解を深めていく。	ここでは患者の全体像をとらえるため，生活者としてＡさんをイメージ化する作業を行う。	〔思考・判断・表現〕 Ａさんが自己管理し生活を続けるために今後必要なことを予測し表現している。
	7	・生活指導に関連して，運動・食事に関連する体験活動を行い，生活場面での健康行動について理解を深める。 （例）・運動療法に関連して 校庭を 15 分間歩行する。 ・食事療法に関連して	運動や食事に関する健康行動について，今後，Ａさんの生活の中で実現可能な，を取り入れていくために，実体験する。	〔思考・判断・表現〕 体験や関連図をもとに，Ａさんが生活しながら継続的に続けらそうな指導項目について考え挙げている。

		スーパーに行き，食品（嗜好品）の種類・量・カロリーなど調べる。		
パンフレットの作成・修正	8	・「パンフレットによる生活指導」における援助内容を考える。 ◆各自で内容を決める。 ◆構成・レイアウトを考える。 ◆同じテーマのメンバーで集まり内容を発表し合い，不足している情報を得たり調べたりする。	患者が今後生活をしていく上で必要性があるものなのか，自作の関連図をもとに根拠を明確にして発表する。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 内容構成はＡさんの生活の中に無理なく取り組めるものか，主体的かつ協働的に検討しようとしている。
	9 ・ 10	・パンフレットを作成する。 ・内容が，Ａさんに適したものとするために工夫した理由も明確となるよう，作成していく。 **個人パンフレットの例** 	・実施可能な内容（Ａさんに適したもの）であるのか，再度情報の整理見直しを行い，必要な情報をさらに得た上で，根拠を明確にして判断できるよう促す。	〔思考・判断・表現〕 対象（Ａさん）の生活を尊重し適した内容であるか，根拠をもとに判断し表現している。
	課題 ・ 11	・家族をＡさんとして，患者指導計画を立案し実施する（**参考資料１**）。 ・家族に評価をしてもらう。（評価表を渡し，家族が記入後，提出）（**参考資料２**） ・評価をもとに振り返りを行う。（**参考資料３**）	保護者にもねらいを伝え，率直な意見をもらえるよう協力を依頼する。	〔知識・技術〕 内容が効果的に伝わるよう，丁寧な言葉づかいで分かりやすく説明している。
	12 ・ 13	・望ましい健康行動を関連図にまとめ，今後の経過を予測しながら改善点を再検討する。（**参考資料４**） ◆パンフレットの内容・分量 ◆説明の方法 ◆話し方・態度  	Ａさんに行ってほしい健康行動が効果的に伝えられているか，が重要であることに気付かせる。	〔思考・判断・表現〕 対象の望ましい健康行動に結び付けられるような内容の改善点を挙げている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 対象のよりよい生活を目指した援助とできるよう，グループで協力し意見を出し合い振り返るなど，主体的かつ協働的に取り組んでいる。

ふりかえり	14	・校内実習を振り返り，成人期である人々の健康を保持増進するために必要なことについて考える。 ◆個別性がなぜ大切なのか，そして原点である看護とは何かについて，また，個別性を踏まえた看護を実践していくために必要なこと・不足していたことを話し合う。 ◆新人看護師のＤＶＤを視聴し，次の実習に向けた目標を設定する。	今回の事例を通して，事例内容の理解だけでなく，看護とは何か，何を目指して学習をしているのか，その課題を達成するために必要なことは何か考えさせ，主体的に学習する大切さ，臨地実習へ向けて意欲を向上できるよう関わる。 看護実践の場で行われる看護について，イメージを持つ。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 紙上事例の自己管理を目指した援助について自ら学び，今後の看護実践に取り入れ行動していこうとしている。

６　経過

（１）パンフレットの作成・修正について

生徒たちは，自主的な学習と課題への取組により，糖尿病の一般的な病態やＡさんの身体に現れていた状態の理解はできていた。しかし，パンフレットを作成してみると，一般的な内容であり，年齢や身体状況などを見極めながら内容を考えることや，一般的な事項をＡさんに合わせて工夫していくことは難しいものであった。そのため，計画外であったが，机上の学びを援助に生かすための①②の体験活動を取り入れることにした。

①パンフレットの内容に関連して，運動療法を実際に行ったり，近隣の店で食品を調べたりする体験活動を取り入れたりし，実事象に基づく思考を促す。

②家族に患者役を依頼し指導を行うことで，パンフレットによる指導場面を経験する。

結果として，パンフレットの具体的な修正には至らなかったが，内容について，Ａさんが継続して取り組めるのか，身近なもの（食品）で取り組めるのか，など，見直しをする機会にすることができた。また，患者指導により評価を受けたことで，パンフレットの内容だけではなく，見やすさ・分量や言葉づかい，態度なども重要であることに気づけた。この気づきはＡさんを尊重した看護実践につながるものである。

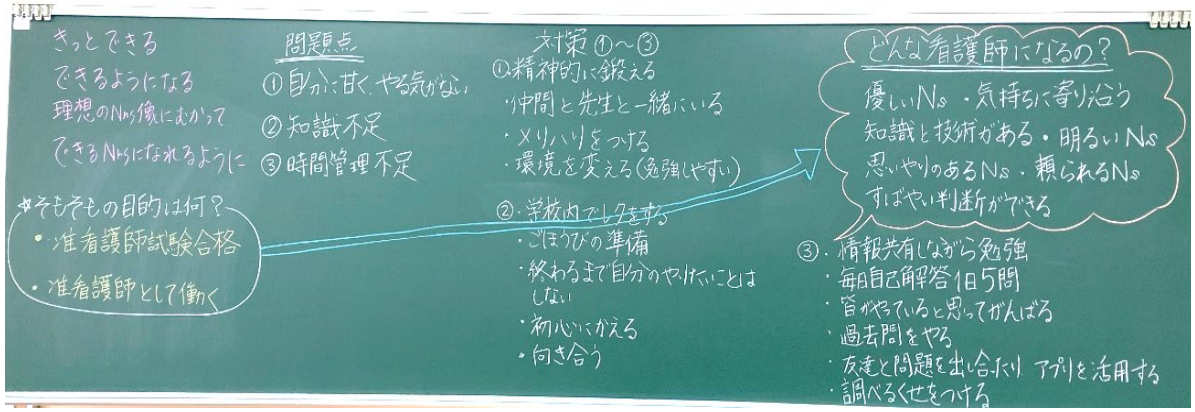
（２）課題解決力を高めるために

パンフレットの改善（修正）ができなかったことについて，生徒にその理由を尋ねると「わからないことがわからない」「せっかく作成したから」などが挙がった。「Ａさんが次の外来にくるまでの，最低２週間は取り組めそうか」など，修正作業というよりも，改善点を話し合うような学習活動のほうがより適切であったと考える。

（３）主体的な学びとするために

Ａさんはあくまで紙上患者で，実際に受け持ち話したりできるわけではない。そのため，生徒のモチベーション維持が難しいと感じられた。そこで，Ａさんの事例展開を含め，学習そのものは何のために行っているか，という点に着目した振り返りを行った（つまり，看護臨地実習における自分の目標を考える場を設けた）。自分の目標は「看護師になる」であり，どんな看護師になりたいか，１つ１つ考えさせる活動を取り入れた。

その結果，図１のような理想像が挙がった。理想の看護師になるためには，現在の課題に取り組み，学習を積み重ねていくことが必要であること，また日々の学習がその理想の糧になっていることを再認識させることができた。また，このまとめを通して，仲間との気持ちを共有でき，病院での実習に向けて共に取り組むという安心感を得ることができた。



（図１）看護臨地実習に向けて，「私のなりたい看護師像」の可視化

本実践では，この後，病院での実習（２週間）を開始することができた。実習後に，校内実習を通して学んだこと，感じたことがどのように生かされているのかについて，アンケート調査を行ったところ，学習を通して，「看護師に対する考えを改めて確認することができた」「実習への意欲向上，心の準備ができた」「臨地実習を行う上で役立った」ことなどを実感することができていた。たとえ十分に個別性を見いだすことができなくても，個別性を目指して援助策を考えることが，看護の在り方などを学ぶことにつながると感じられた。

臨地実習は，習得した知識・技術をつなげ実践していく場であるが，人を対象にする看護者としての成長の場，人間的な成長の場でなくてはならない。校内実習で深められること，臨地での実習でこそ重視したいことを見極め，指導していく大切さを改めて感じた。

本事例は以上の実践をふまえながら，対象理解のための体験活動，目指す看護師像のイメージ化のためのＤＶＤ視聴などを改めて学習活動に位置づけながら，作成した。

７　おわりに

今回は臨地実習の一貫として，成人看護の慢性期疾患で事例展開をし，患者理解を深めるためにパンフレットを作成し指導を行うという展開をした。新型コロナウィルス感染症予防対策として，対面的活動は最小限に，臨地実習期間の縮小がなされた。自己理解が十分ではなく，社会経験が少ない生徒にとって，紙上事例を用いた看護展開は，患者と看護を想像する限界とリアリティーのない要素から，考えにくく捉えにくさがあった。その経過の中で，うまく学習が進まず意欲が低下していく様子が見られた。

生徒の学習が進まない要因として，患者理解の難しさ，個別性のある看護の抽出の難しさが共通認識される中で，話し合い活動を通して，本来の自分自身の課題を考えさせ，気が付かせることで，自分の課題の明確化や，今後の学習内容の確認ができ，低迷した意欲が再度向上し，積極的に臨地実習に臨むきっかけとすることができた。また，思い・考えを表出し，仲間と共有して認め合う環境づくりをすることも，協働的な学びのためには欠かせないものである。

今回は，この話し合いののち実習を行い，校内実習とのつながりも意識することができた。臨地でのリアリティーショックによる意欲減退なども想定されるため，今回のように，臨地実習開始前に学習の意義やキャリアイメージなど，改めて確認できるような機会を計画して行っていくことも効果的と考える。

（参考資料）
（１）パンフレット指導計画書

演習〔糖尿病の患者様にパンフレットを使用し，実際に指導を行う〕

1. 家族に，「患者役を引き受けて下さる方へ」プリントを渡し，協力を得ましょう。

2. 協力者が決まったら，指導計画を立案しましょう。
（1）指導計画

	ポイント	自分の計画
誰に	本人・家族など	
いつ	①よいタイミング？ ②良い時間？	
どこで	①指導に必要な物品？ ②集中できる？ ③プライバシーが守れている？	
何を	①関心（興味）のある内容から始める？ ②簡単な内容から始める？ ③指導内容は過不足ないか？	
どのように	①理解しやすい言葉を使って指導できる？（例を挙げる） ②指導内容に応じて段階ごとに指導できる？ ③あいまいな知識で，答えない。	

（2）事前に目的を伝え了承を得て時間を約束してください。

日時時間など

（２）家庭への依頼文・評価表

患者役を引き受けて下さる方へ

日頃より，本校の看護教育にご協力いただきありがとうございます。

さて，実習も先週で終了し，学内実習を進めております。コロナ感染症の影響で本来であれば患者様に対して行われる援助を学内で模擬患者を設定し『糖尿病の患者様を指導する』という授業を実施しました。慢性期患者の看護では，継続したケアが必要であり，看護師の効果的な指導が必要となります。

生徒それぞれが，これから長い人生，糖尿病とうまく付き合っていくためにできる指導を考え，パンフレットを作成しました。そのパンフレットをもとに指導し，お話させていただきたいと思います。この内容は看護師として必要な能力を身につける学習となりますので，御多用中と存じますがしばし手を止めてお付き合いいただけますようご協力お願いいたします。

なお，実施した後はお手数ですが，その内容の評価と率直なご意見をいただきますようお願いいたします。

〇〇高等学校　衛生看護科
主任　〇〇　〇〇

<チェック項目>　　あてはまる項目に〇をつけてください。

①内容はわかりやすく工夫されていたか。	はい	まあまあ	やや改善の必要あり	改善する点が多い
②大人に対する言葉遣いができていたか。	はい	まあまあ	やや改善の必要あり	改善する点が多い
③話すスピードは聞きやすかったか。	はい	まあまあ	やや改善の必要あり	改善する点が多い
④パンフレットは見やすかったか。	はい	まあまあ	やや改善の必要あり	改善する点が多い
⑤指導を受けてやってみようとおもったか。	はい	まあまあ	やや改善の必要あり	改善する点が多い

是非，感想をお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。

（３）振り返りシート

３. 指導後の振り返りをしよう！（家族の評価・感想も参考に）

①看護師役の評価を受けて

②次回, 患者指導を行う際に工夫改善したいこと

③感想（思ったこと・感じたこと。患者の立場・看護師の立場で考えてみてください。）

（４）患者指導の改善に向けて

自己評価表

1.パンフレットの評価

	工夫した内容	よくできた内容	うまくいかなかった内容	点数	他の人のパンフレットも参考にしながらパンフレットを評価
①内容の抽出					
②文字					
③イラスト・図表					
④装飾					
⑤用紙					

評価方法:4完璧にできた　3完璧ではないができた　2課題があるができた　1できていない

2.パンフレットを用いた患者指導をより効果的に行うための工夫・改善点

3. 感想

（専攻科１年　健康支援と社会保障制度「ヘルスプロモーション」）プロジェクト学習を取り入れた探究的な学び

学習活動　「ヘルスプロジェクト ～疾患を抱えていても働き続けられる方法の提案～」	〔指導項目〕 (1) 公衆衛生　ウ　生活者の健康増進

１　目標

(1) 多様な人々が自ら疾病を予防し，健康管理を行うために必要な支援について理解するとともに，関連する技術を身に付ける。

(2) 人々が自ら健康を管理しながら生活していくために必要な支援について課題を発見し，看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす。

(3) 人々が適切に健康管理を行うために必要とされる基本的な支援について自ら学び，対象となる人々の自己管理を目指して主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な人々が自ら疾病を予防し，健康管理を行うために必要な支援について理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。	人々が自ら健康を管理しながら生活していくために必要な支援について課題を発見し，看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。	人々が適切に健康管理を行うために必要とされる基本的な支援について自ら学び，対象となる人々の自己管理を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

３　単元の概要とねらい

（１）単元の概要

ヘルスプロモーションとは，人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし，改善できるようにするためのプロセスを指す。本単元は，疾患を抱え，地域社会で自己管理のもと生活する上で必要な支援について考えるために，事例を取り上げ具体性のある支援策を看護者の立場で検討していく。対話コーチングを取り入れながら，支援策を話し合うなど，多様な活動を取り入れ計画している。

（２）プロジェクト学習について

プロジェクト学習は，自ら定めた目標に向けて戦略をたて，情報を集め，課題解決していく学習である[1)]。本校では，各学年で，科目のねらいに応じたテーマを設定し，学習に取り入れてきた[2)]。

本単元は科目「ヘルスプロモーション」に位置付けられ，地域に住む架空の対象者を様々な情報をもとにイメージし人物像を作り上げ，地域でのリサーチを含む情報リサーチにより理解を深め，支援策を提案するまでの活動を行う。生徒は学びのプロセスをそれぞれ，レポートや成果物，ポートフォリオなどにまとめ，自らの学びを俯瞰したり自己調整したりしながら取り組む。

（３）生徒について（対象の理解について）

生徒はこれまで，チームや個人でのプロジェクト学習に３回取り組み，学習法には十分慣れている。公衆衛生学や社会福祉，関係法規などにおいて，生活環境や労働と健康の関わりなどについて学習し，臨地実習においても，成人期や老年期の様々な健康状態にある人々と関わってきた。現実性のある人物像を作り上げる活動を通し，対象理解に必要な情報やその収集方法も学ぶことができる。

４　テーマ「プロジェクト学習を取り入れた探究的な学び」について

本校では「生涯学び続ける力を育てる」を目標にし，プロジェクト学習をその中心に位置付けている。特にヘルスプロモーションは，人物像を自分たちで作り上げ地域でリサーチ活動を行うからこそ，最適な支援を考え，看護者に必要な，「その人らしさ」を尊重することの真意を探究できると考える。

5　指導計画と展開（15 時間）

<table>
<tr><th>時間</th><th>学習活動と内容</th><th>備考</th><th>評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>1. ヘルスプロモーションについてオリエンテーションを受ける。
・プロジェクト学習のテーマとゴールの確認
・活動スケジュール，学習シートの使用法について</td><td>時間のはじめと終わりに個人シートを記入する。</td><td>〔主体的に学習に取り組む態度〕
活動に見通しを持ち自ら課題を設定し取り組もうとしている。</td></tr>
<tr><td>2
・
3
・
4</td><td>【ねらい】対象者に関連する情報を取集・整理しながら理解を深めるとともに，健康支援のための課題を見いだす。

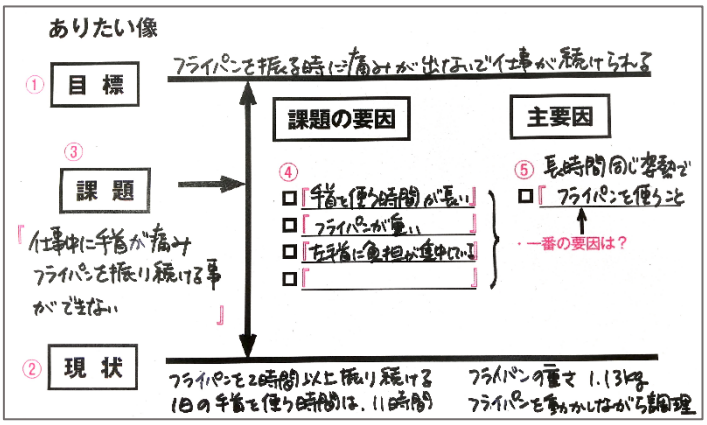
1. 対象者について，「R（リアル）10」[3] をもとに現実性のある人物に作り上げていく。

「R10」の着眼点
①時間　②住居　③空間　④健康・生活
⑤家庭・立場　⑥仕事・職業　⑦欲求行動
⑧生活史　⑨地域　⑩経済状況

2. 文献，インターネット，既習事項の見直しなどにより情報リサーチを行い，情報を加え，対象者像を明確化する。

明確化した対象者像↓→

3. 対象者の自己管理に向けた援助のために，現状・課題・課題の要因を分析しシート[4] にまとめ，目標（ありたい像）を検討する。

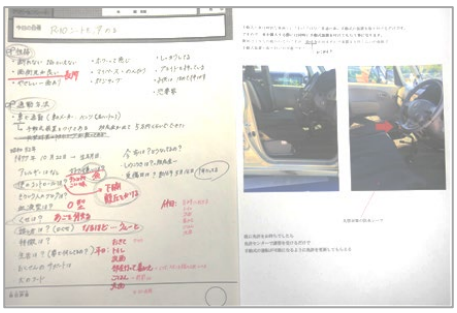
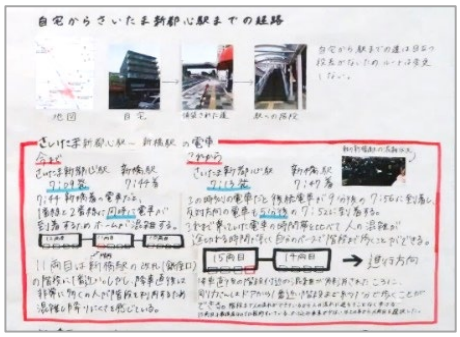
シートまとめ例↓
 

4. 対象者の現状と目標（ありたい像）から，必要な支援に目を向けていく。</td><td>①チーム面談
（対話コーチング）
対象者は，現実性のある人物となっているか

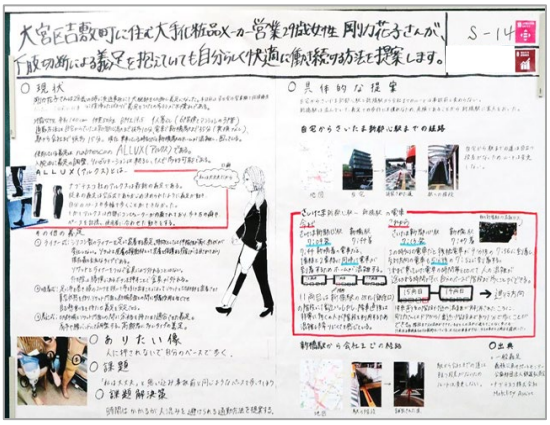
②チーム面談
（対話コーチング）
望ましい像（ありたい像）と課題解決の方策について</td><td>〔知識・技術〕
対象者について，必要な情報を収集・整理し現状を明確にした上で，健康管理を行うために必要な課題を理解している。

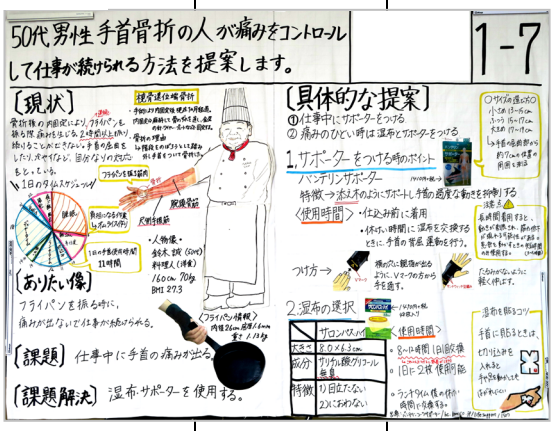
〔思考・判断・表現〕
対象者を生活者としてとらえ，自己管理し生活していくにあたり解決すべき課題を適切に発見している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕
人々が適切に健康管理を行うにあたり必要とされる支援を見いだすために自ら学び，グループで協力し取り組もうとしている。</td></tr>
</table>

5 ・ 6	**【ねらい】対象者の生活を尊重した支援とするために様々な情報を収集し，検討を加える。** 1. 引き続き，対象者の目標（ありたい像）に向け，具体的な支援策を検討するための情報リサーチ活動を行う。 2. 他のチームと進捗状況を共有し意見交流を行う。 3. 意見交流により得られた良い見方や考え方を取り入れ改善していく。 **個人ポートフォリオ例↓** 	収集した資料や作成したメモは個人ポートフォリオに蓄積していく。	〔知識・技術〕 対象者の生活を尊重した援助とするために様々な情報を収集し，対象者の自己管理が可能かを，情報をもとにアセスメントしている。
7 ・ 8	**【ねらい】健康管理に必要な支援策を見いだすために地域リサーチを行い現実の社会資源や生活環境下での支援策を検討する。** 1. 具体的で最適な解決策を見つけるための地域リサーチ計画書を作成し，準備を行う。 ・情報収集の内容と方法，活動範囲，役割分担など 2. 計画に沿って，住んでいる地域の生活環境や，社会資源などをリサーチする。 **地域リサーチまとめ例→** 	**③チーム面談（対話コーチング）** 地域リサーチ計画について	〔思考・判断・表現〕 各地域の保健に関する施策なども反映させながら適切な援助策を見いだしている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 支援を見いだすために必要となる情報収集活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	**【ねらい】資料作成・発表準備を行うことにより，見出した支援策について，根拠を明らかにしたり現状と照らし合わせたりしながら妥当性を説明できるようする。** 1. リサーチで得られた情報を追加しながら，対象者の理解を深め，支援策を決定する。 ・支援策は対象者が，『疾患を抱えていてもその人らしく「生活」する』という視点から決定する 2. 具体的な支援策を提案の形でまとめる（他者に伝えるための資料の作成）。 ・最適な方法を提案する。 ・情報の整理，解決策の根拠を確認する。 ・他者に伝わるような，情報の提示方法を考える 3. プレゼンテーションリハーサル ・根拠に基づく適切な内容であったか，意見交換し，検証しながら改善していく。	**④チーム面談（対話コーチング）** 効果的なプレゼンテーションについて	〔思考・判断・表現〕 生活者としての理解に基づく援助策を見いだし，根拠を明確にしながら論理的に表現している。

プレゼンテーション発表用資料例（模造紙）↓





13	**【ねらい】多様な人々について，それぞれの生活や健康管理に必要な援助策を理解し，人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし，改善することができるようにするために必要な援助のあり方について思考を深める。** 1. 取組を通しての成果を個人ポートフォリオに集約しまとめる。 2. 国や地域の保健医療に関する施策と関連性を持たせながら，各グループの成果物（提案集）や，ポートフォリオの資料を振り返るなどし，看護者として必要な姿勢（援助の在り方）について考えを出し合い個人のまとめを行う。 **提案集の例（製本）→** 	各グループの発表資料は「提案集」として共有する。	〔知識・理解〕 人々が自己管理を行うために必要なサービスおよび提案方法について理解するとともに，関連した技術を身に付けている。
14 ・ 15	【他学年との合同プレゼンテーション】 1. 制作した発表用資料をもとに，実演しながらプレゼンテーションする。 2. 多様な人々・場面で，目的に応じた援助の在り方，看護の在り方を振り返り，個人ポートフォリオにまとめる。	発表会 （高１，２，専１の３学年合同授業）	〔思考・判断・表現〕 根拠を明確にしながら論理的かつ，主旨が効果的に伝わるよう工夫し表現している。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 健康支援のための援助の提供を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

６　経過

今回の実践では，プロジェクト学習の導入・進行は主担当者（１名）が行い，各グループの面談（対話コーチング）は，専攻科の学年担当の教員が時間を調整し，授業時間外に行なった（できれば授業時間内に確保したい）。

「R10」の着眼点をもとに架空の人物（対象者）に具体性を持たせていく過程では，関連した疾患や治療法，生活上困ることなど様々な情報を収集・活用していた。情報をもとに検証を重ねながら実在化していくことにより，対象理解のための情報収集の方法や，解決に必要なリサーチの方法なども自然に学ぶことができた。また，コーチングやグループ協議を重ねていくことで，集める情報は，幅広く現代的な課題に即したものに精選することもできた。

見いだした支援策は多種多様であるため，生徒たちが考える方向性やその段階をよく把握し，根拠を明確にしながら，対象の理解やその人らしい実現可能な援助策を見いだしていく学習過程を尊重しながら，進めていくようにした。そのため，チーム面談（対話コーチング）が重要で，プロジェクト学習におけるコーチングの目的や方法など，事前に打ち合わせ・確認を行い，教員間での情報共有も密に行いながら進められるようにした。具体的な解決方法を考えていくために，文献に書かれていること・通説として認識されていることには実際の生活場面において実践することが難しい場合があることなど，必要時説明はするが，生徒自身が気づき納得してもらえるよう気を付け，面談を進めた。

また，チーム面談や合同プレゼンテーションなど，様々な機会に様々な教員が参加することによって，生徒の様子を把握し，教員間で共有することができた。生徒たち自身も，メンバー間で自然に役割分担をしながら進めることができていた。

合同プレゼンテーションにおいては，発表に対する質疑応答を行ったり参加者から講評意見をいただいたりし支援策をさらに改善する，納得させられる根拠を探し示すなど，より学びを深化させる機会とすることができた。他学年との交流は，上級生が自分の成長を実感したり，下級生は自分の今後の成長をイメージしたりする機会にもなる。発表が経験で終わることがないよう，さらにポートフォリオにまとめ整理し，個人の学びの蓄積として活用していけるよう促していきたい。

本事例は，実践をもとに改めて時間数等見直し作成したものである。「ヘルスプロジェクト」として身に付けてほしいことをしっかりと明示し説明することや，振り返りにおいて，人々に必要な支援のあり方を再度話し合うことなど，プロジェクト学習の学びと科目の学びを関連付ける場面も設定した。また，今後，ポートフォリオ，成果集を他の関連する教科でも活用していくことも，学びの継続性のために取り入れていきたい。

７　おわりに

本プロジェクトは各学年において「生涯学び続ける力を身につけた生徒の育成」という目標の共有において進めているものであるが，日ごろから以下のような点に留意していくとよいと考えた。

１．知識を現実の生活や社会と融合させていくために，社会の状況や地域に関心が向けられるよう，日頃の活動や授業にこれらの話題を取り入れていく。

２．他の教科・科目で学んでいることと関連付けながら，重なりを効果的な学びとなるように工夫する。

⑴ 看護科目との関連

例えば本事例では，障害を持つ人の就労支援の場や，乳房切除術を受けた対象者の下着の選び方などに着目し，地域の施設や店舗にリサーチに行ったグループなどがあった。リサーチの経験を，「社会福祉」や「成人看護」など，関連した科目・内容で触れていくなど，様々な接点を持たせ取り上げ考察させていく。

⑵ 他教科・科目との関連

例えば，英語を母国語とする人に対して援助を考えるときには，英語によるコミュニケーションや出身国の背景などを理解しておく必要があり，他教科の教員と協働的に取り組むことでより効果が得

られる。生徒たちが取り組んでいるテーマを他教科の先生方にも知らせるなどし，協力を仰ぐ。

3．ただのグループワークとならないよう，生徒が主体的につかんだ学びを既習事項と結び付けたり，発展させたり工夫したりする過程を支えていけるようにする。教員との面談や合同プレゼンテーションの機会を効果的に生かしていく。

4．臨地実習での様々な制限がある中，看護の対象となる方々（患者さん・家族）と直接関わり，実際に理解を深め援助策を考え実施できる機会が少なくなった。「R10」の着眼点を活用すると，患者像をより具体的にイメージし描くことができる[5]ため，校内の演習においても着眼点を活用し，対象の理解を深めたり模擬患者役の参考としたりする。

ヘルスプロモーションにプロジェクト学習を取り入れることで，疾患や障害を抱えていても，自分らしく社会の中で生活するための方法を提案するという，「医療モデル」ではなく「生活モデル」で対象をとらえる視点が養われるものと考えている。

（参考文献・資料等）

1）『【公式】鈴木敏恵ポータルサイト』http://suzuki-toshie.net/
「プロジェクト学習＆ポートフォリオ活用」ダウンロード資料
資料Ａ〔ポートフォリオ・プロジェクト学習の基本〕

2）本校では，５年間のプロジェクト学習は以下のように計画し取り組んでいる。

各学年で実施しているプロジェクト（科目名は、令和3年度のもの）

学年	科目等	プロジェクト	内容	形態
高校1年	基礎看護	避難所プロジェクト	地震により避難所である学校に避難してきた方（R10で作り上げた架空の人物）を対象とし、避難所での過ごし方を提案する。	チーム
		ナイチンゲールプロジェクト	自分の家族を対象とし、健康を守るための新たな生活様式を提案する。（大切な人の健康を守ります）	個人
高校2年	基礎看護	エビデンス探求プロジェクト	文献検索を行い、基礎看護技術のエビデンスを確かめる実験を行う。	チーム
高校3年	精神保健	夢をかなえようプロジェクト キャリアビジョン実現プロジェクト　（継続的に取り組む）	どのような看護師になりたいかという自分の将来像をイメージしキャリアポートフォリオを作成していく。	個人
専攻科1年	ヘルスプロモーション	ヘルスプロジェクト	疾患などを抱え地域で生活している方（R10で作り上げた架空の人物）を対象として、居住地・職場の地域や社会資源などをリサーチし、働き続けるための方法を提案する。（疾患を抱えていても働き続けられる方法の提案）	チーム
専攻科2年	学年活動	キャリアビジョン実現プロジェクト	キャリアポートフォリオを就職活動に活用する。	個人

3）鈴木敏恵『アクティブラーニングを超えた看護教育を実現する』医学書院，2016 年，p. 185

4）１）資料Ｓ〔課題発見・課題解決プロセスシート〕

5）３）p. 180

・掲載写真・資料は，埼玉県立常盤高等学校「SPH 研究実施報告書　第 5 年次（平成 30 年度版）」，「SPH プログラム（指導案）集」より